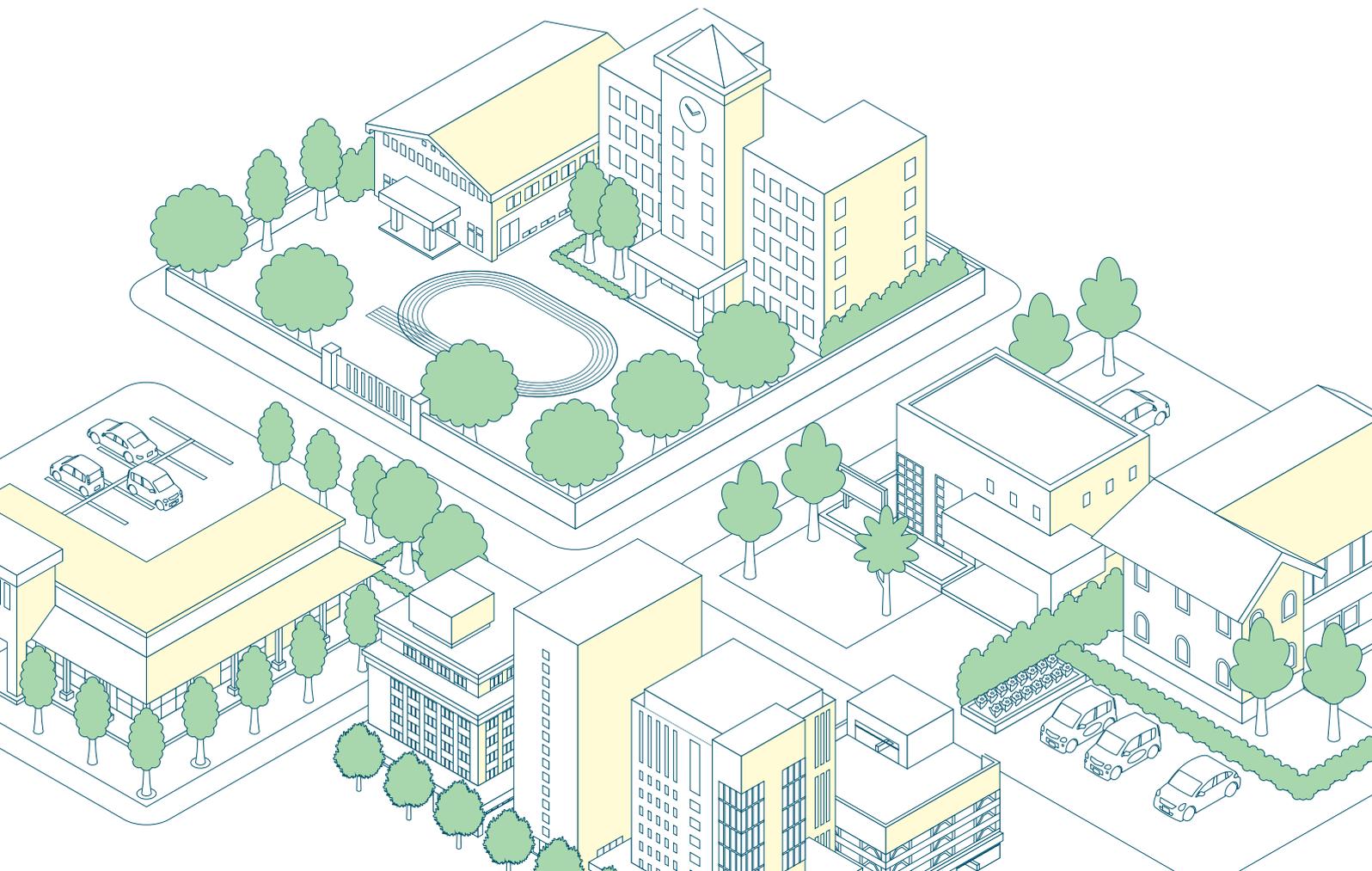


ANNUAL REPORT 2024

MITSUBISHI MEMORIAL FOUNDATION
FOR EDUCATIONAL EXCELLENCE



理事長挨拶 1

Chapter 1 財団活動報告

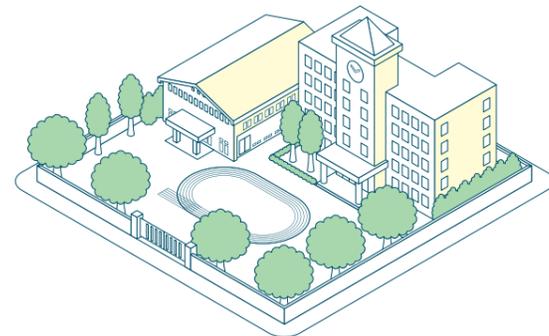
- 2 一般財団法人三菱みらい育成財団のビジョン／助成カテゴリー一覧
- 3 2024年度の応募・採択状況
- 4 2024年度助成カテゴリー
- 6 2022～2024年度採択案件所在地マップ
- 8 プラットフォーム事業の推進
- 11 【イベント開催】理系BLOSSOM開催

Chapter 2 助成先活動報告

- 12 【座談会】
「人生100年学びのスパイラルをどう持続可能にしていくか」
久賀史恵氏(名古屋市立菊里高等学校)×進藤修一氏(大阪大学)×吉川 幸氏(岡山大学)
- 18 カテゴリー1 東京都立南多摩中等教育学校
- 19 カテゴリー1 鹿児島県立大島高等学校
- 20 カテゴリー2 特定非営利活動法人しずおか共育ネット
- 21 カテゴリー3 株式会社トゥワイス・リサーチ・インスティテュート
- 22 カテゴリー4 上田女子短期大学
- 23 カテゴリー5 名古屋大学 大学院教育発達科学研究科

Chapter 3 2024年度助成先一覧 24

Chapter 4 会計報告／財団概要 36



理事長挨拶

三菱みらい育成財団は、三菱グループ創業150周年を記念して、2019年10月に設立されました。VUCA[※]の時代を生き抜き、未来を切り拓く人づくりを目的に、次代を担う若者の育成を目指す教育活動への助成と、ネットワークづくりや情報発信を通じ、その成果を社会に波及させるために活動しています。

この助成活動は、グループ各社が10年間で計100億円を拠出し、高校生を中心とする15～20歳の若者たちを対象とする教育プログラムにフォーカスするものですが、設立直後のコロナ禍も、関係する皆さまのご協力とご支援により活動を続け、2024年度までの助成先は延べ384機関、参加者総数は22万7,000名に及んでいます。また、高校・大学やNPO法人等多様な助成先と3カ年の助成期間が終了した「アルムナイ」が直接意見交換や情報共有を行える定期的な交流会を運営し、改善点・課題への対応経験など、知恵と行動を共有できるネットワークづくりの場も提供しています。

一方で、今までに考えられない規模で、人工知能(AI)の急速な進化や気候問題と関連するエネルギーや資源の問題などが世界各国の将来に影響を与え始めており、我が国も例外ではありません。このように、不透明さ・不確かさが増す世界の中には、我が国の安全で安心な社会や良き風土を持続的に支えていくための根幹である教育の重要性がさらに増していきます。高校、大学、教育事業者等の皆さまはもちろんのこと、企業や社会の全ての人々が教育に各自のベストを尽くし、より良き社会を繋いでいくことが真に求められています。私たち財団も微力ではありますが、全力を尽くして参りますので、ご理解とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

※Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字を並べたアクロニム(頭字語)。一般的に、先行きが不透明で将来の予測が困難な状態を指す。

一般財団法人
三菱みらい育成財団 理事長

宮永 俊一



◆ 一般財団法人三菱みらい育成財団のビジョン

私たちは、想像力・創造力・構想力を磨くための優れた教育プログラムへの助成を通して、複雑化する社会の難問に対処しながら自ら未来を切り拓く若者をサポートします。

なぜ、今「教育」なのか？

150年前、1870年に三菱グループがスタートした時代、19世紀後半は、産業革命に端を発して世界覇権が大きく塗り替えられ、日本も開国～明治維新により、その真ただ中に飛び込んでいくという激変の時代でした。それから150年、世界は再び歴史的な転換点に差し掛かり、激しい変化と予測の難しい中で、複雑な問題や課題を数多く抱えています。それらを解決していくためには、未来を切り拓く力を持った多くの人材が不可欠です。そうした次世代人材を生み出すための「教育」が必要だという、私たちの思いからスタートしています。

私たちの夢とゴール

私たちは、全国でのさまざまな優れた取り組みや仕掛けを、発掘し、助成し、育て、横に展開することで、グッドプラクティスをつくり上げます。その先には、日本の教育の在り方やシステムをより良い方向に変えていく、という私たちの夢があり、ゴールがあります。

なぜ、「若者」がターゲットなのか？

私たちが着目したのは、10代後半の若者たちです。この年代は、人生で最も柔軟かつ多感であり、無限の可能性を秘めた未来の担い手たちであるからです。この世代の人たちに、一人ひとりの個性と自発的な想いを引き出し、何のために生きるのか、何のために学ぶのかを自ら問い、目の前に山積みになっている課題の解決に向けて、行動を起こすことを学んでほしいからです。

私たちのチャレンジ

この財団は、10年間という期限を自らに課しています。2030年に皆さんにどのような成果をお見せできるか、それは私たちに課せられた大きな責務であり、挑戦です。

私たちのチャレンジに引き続きご期待いただき、さまざまな視点・立場から、ご意見・ご批判をお寄せください。

◆ 助成カテゴリー一覧 (詳細は4・5ページをご覧ください)

1案件につき、原則3カ年助成を行います。2023年度・2024年度は、新規助成先に加えて、3年間の助成期間を終えた助成先の中から、他校・他団体への横展開などに取り組む助成先をリエントリーとして採択いたしました。

プログラム	助成対象者	プログラム参加者
カテゴリー1 高等学校等が学校現場で実施する「心のエンジンを駆動させるプログラム」	高等学校等	高校生等(15~18歳)
カテゴリー2 教育事業者等が行う、より先進的、特徴的、効果的な「心のエンジンを駆動させるプログラム」	NPO・株式会社他 教育事業者、大学等	高校生等(15~18歳)
カテゴリー3 卓越した能力を持つ人材を、早期に発掘・育成する教育プログラム「先端・異能発掘・育成プログラム」	大学、研究機関、NPO・ 株式会社他 教育事業者等	高校生等(15~18歳) ^{※1}
カテゴリー4 大学・NPO等で行う、「21世紀型 教養教育プログラム」	大学、NPO・株式会社他 教育事業者等	大学1・2年生相当 (18~20歳) ^{※2}
カテゴリー5 「主体的・協働的な学習(心のエンジンを駆動させる学習)を実践できる教員養成・指導者育成プログラム」	大学、研修機関、NPO・ 株式会社他 教育事業者等	高校教員・指導者

※1 カテゴリー3のアントレプレナーシッププログラムの参加者は、高校生に加え、大学1・2年生も対象とします。

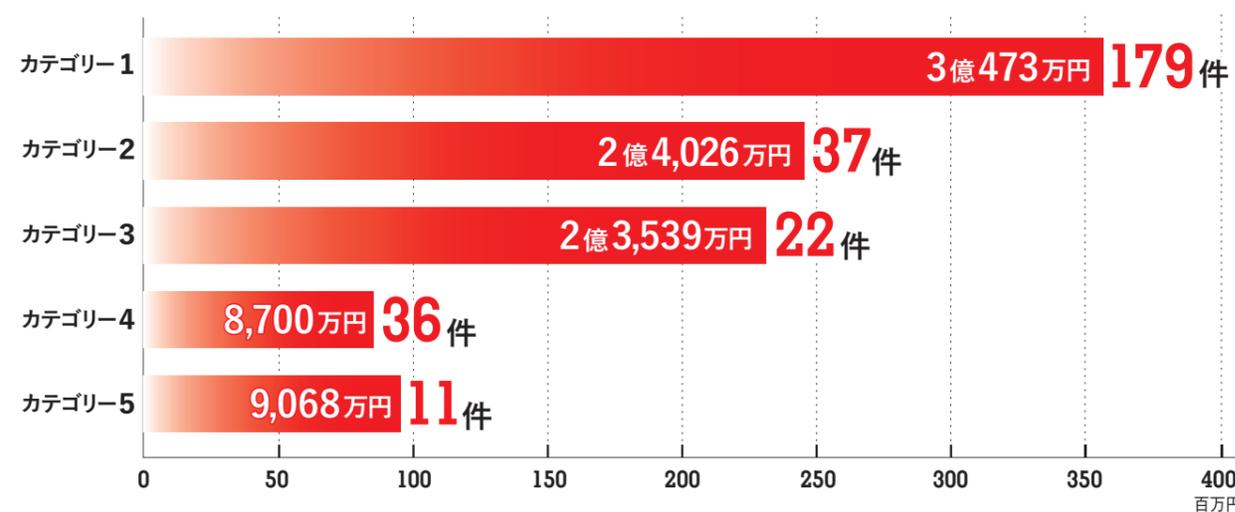
※2 カテゴリー4は、大学1・2年生対象のプログラムに加え、3・4年生を対象とした、専門教育と並行して実施する、学問領域横断の教養教育プログラムも対象とします(2024年度から追加)。

◆ 2024年度の応募・採択状況

▶ 2024年度のお応募・採択件数

	応募	採択		応募	採択
カテゴリー1	180件	▶	64件	カテゴリー4	65件 ▶ 17件
カテゴリー2	125件	▶	12件	カテゴリー5	37件 ▶ 6件
カテゴリー3	37件	▶	6件		

▶ 2024年度の採択件数・助成額(継続案件を含む)



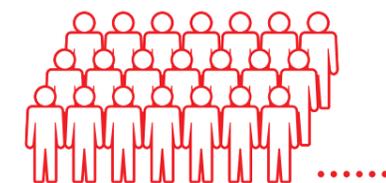
▶ 2024年度の カテゴリー1の助成先

全国 **45**
都道府県



▶ 2024年度の 全カテゴリーの対象者数

約 **135,700** 人



◆ 2024年度助成カテゴリー

カテゴリー1 高等学校等が学校現場で実施する「心のエンジンを駆動させるプログラム」

- **プログラムの形態**
 - ・総合的な探究の時間や教科等、教育課程の一環として、原則として、学年の生徒全員を対象として行うもの
 - ・内容は生徒の実態に応じて設定し、学習領域や教育手法は自由
- **期待する活動イメージ**(全ての活動が含まれている必要はありません)
 - ・主体的・協働的な学習(課題／研究テーマの発見から仮説設定、検証、解決・解明までの一連の流れを生徒が自主的に取り組む)プログラム
 - ・多様な価値観に基づき思考や発想を出し合いながら創造的な活動や探究的な活動を行うプログラム
 - ・学外(企業、大学・研究機関、他校、地域等)との連携や、学校・地域に定着させるための体制や仕組みの整備も含まれると望ましい
- **習得・向上を期待する資質・能力**
 - 思考力や基礎的な能力に加えて、プログラム後も生徒が継続的に心のエンジンを駆動させ、将来、社会参画・問題解決していくために必要となる資質・能力の習得・向上を期待

- **助成対象者／プログラム参加者**
 - 高等学校等／高校生等(15～18歳)
- **金額**
 - 年間200万円/校を上限とする。ただし、プログラム参加者が100名以下の場合、及びプログラム対象学年が1学年のみの場合は、年間100万円/校が上限
- **助成期間**
 - 1年間(初年度は9カ月)。取組みの定着を目的に原則3カ年まで(成果報告の内容次第では、継続助成しない場合もあり)
- **他団体からの助成有無**
 - 複数団体(自治体、各種法人等)からの同一プログラムへの助成金の有無は問いません。ただし、SSH、WWL、普通科改革支援事業、創造的教育方法実践プログラムの対象校で文科省から助成を受けているプログラムは対象外

カテゴリー2 教育事業者等が行う、より先進的、特徴的、効果的な「心のエンジンを駆動させるプログラム」

- **プログラムの形態**
 - ・学校外または学校内で一定期間、継続的に行われるプログラム(プログラム形式)、または、広く参加者を募り、成果を競い合うプログラム(コンテスト形式)
 - ・学習領域や教育手法は自由(例:地域・社会課題解決学習、キャリア教育、STEAM教育、国際理解教育、食文化・農林水産、伝統文化・環境・芸術等)
- **期待する活動イメージ**(全ての活動が含まれている必要はありません)
 - ・主体的・協働的な学習(課題の発見から仮説設定、検証、課題解決までの一連の流れを生徒が自律的に取り組む)、創造的な活動や探究的な活動を行うプログラム
 - ・学校単独では実施できない先進的または特徴的な内容(参加者間の交流や特定の属性・志向等)や手法を用いたプログラム
 - ・助成終了後も継続実施するための体制や仕組みの整備(普及広報、自立化方策等)が含まれると望ましい
- **習得・向上を期待する資質・能力**
 - 思考力や基礎的な能力に加えて、プログラム後も生徒が継続的に心のエンジンを駆動させ、将来、社会参画・問題解決していくために必要となる資質・能力の習得・向上を期待

- **助成対象者／プログラム参加者**
 - 教育事業者(教育事業の取組み経験が1年以上あること)、大学、地方公共団体等(在外教育施設は除く)／高校生等(15～18歳)
- **金額**
 - 年間500万～1,000万円程度
- **助成期間**
 - 1年間(初年度は9カ月)。取組みの定着を目的に原則3カ年まで(成果報告の内容次第では、継続助成しない場合もあり)

カテゴリー3 卓越した能力を持つ人材を、早期に発掘・育成する教育プログラム「先端・異能発掘・育成プログラム」

- **プログラム参加者の将来イメージ**
 - **先端科学の研究開発**
 - 将来、分野を問わず先端の・卓越的な基礎研究・応用研究を担う人材、パラダイムシフトにつながるような新技術や新領域の研究開発、イノベーションを担う人材
 - **グローバル・ビジネス**
 - 将来、グローバルな企業・組織において活躍する人材、国際的な視点で、高い志・創造力等を備えたビジネス・リーダー人材
 - **アントレプレナーシップ**(このプログラムのみ大学1・2年生も参加対象)
 - 将来、既存ビジネス・市場等の構造変革につながるような革新的な事業などに携わる人材
 - **地球的課題、地域・社会課題解決**
 - 将来、国際的な機関・組織・NPO・企業において活躍する人材、地球的課題(SDGs等)、地域・課題解決などに携わる人材

- **芸術・クリエイティブ**
 - 将来、卓越した能力を発揮して、創造的な活動により国際的に活躍する人材
 - ※なお、プログラム自体の卓越性に加え、飛躍的な成長が期待できる参加者の効果的な発掘方法も期待します
- **助成対象者／プログラム参加者**
 - 大学、研究機関、教育事業者等(教育事業の取組み経験が1年以上あること)／高校生等(15～18歳)、アントレプレナーシップのプログラムについては、高校生に加えて「大学1・2年生相当」も対象とする
- **金額**
 - 年間1,000万～2,000万円程度。ただし1,000万円を超える採択は、限定的に運用
- **助成期間**
 - 1年間(初年度は9カ月)。取組みの定着を目的に原則3カ年まで(成果報告の内容次第では、継続助成しない場合もあり)

カテゴリー4 大学・NPO等で行う、「21世紀型 教養教育プログラム」

- **21世紀型教養教育 領域**
 - ・人文科学領域(倫理、哲学、宗教、歴史(現近代史を含め)等)を中心に社会科学(法学、経済学、社会学等)、自然科学(数学、物理、生命科学等)を含め、これらの知識を融合させ「正解のない問い」について自分の頭で考えて、アウトプットするプロセスまで含むもの
 - ・上記に加え、現代的な課題についても取り上げ、同様の手法で取り組むもの(AIと倫理、感染症対策、温暖化、エネルギー問題、ダイバーシティ・インクルージョン、サステイナビリティ、SDGsの課題解決 等)
- **プログラムの形態**
 - 大学1～2年生向け*に行われる教養教育において、リベラルアーツ関連領域の知識を基に、対話的手法により自己の見識を高め「モノの見方・考え方(観)」を養うもの(Critical Thinking + Writing) ※大学3・4年生を対象とするプログラムも、専門教育と並行して実施する、学問領域の横断を伴う教養教育プログラムは対象とする
- **期待する活動イメージ(例示)**
 - ・教養教育関連領域の講義と少人数対話形式のディスカッションを繰り返すことでの自己啓発を組み合わせたもの(大人数での講義

- と少人数対話型の混合プログラムも対象)
- ・大学における正式科目(講義+演習等)、複数の大学を跨ぐ活動など形式は自由(ただし、イベント等数日間の短期プログラムは除く。3カ月以上継続して行われるもの)。また、正式科目ではないパイロットプログラム等(大学外で実施する私塾のようなプログラム)も含む
- **助成対象者／プログラム参加者**
 - 大学等(大学、学部、ゼミ単位、心ある教え手(導き手)がコンソーシアムを組成する、単独で実施する形でも可*)、教育事業者等/大学1・2年生相当(18～20歳の年齢層)、及び左記条件を満たす大学3・4年生 ※私塾(法人格は必須としない)も含む。
- **金額**
 - 年間100万～800万円程度
- **助成期間**
 - 1年間(初年度は9カ月)。取組みの定着を目的に原則3カ年まで(成果報告の内容次第では、継続助成しない場合もあり)

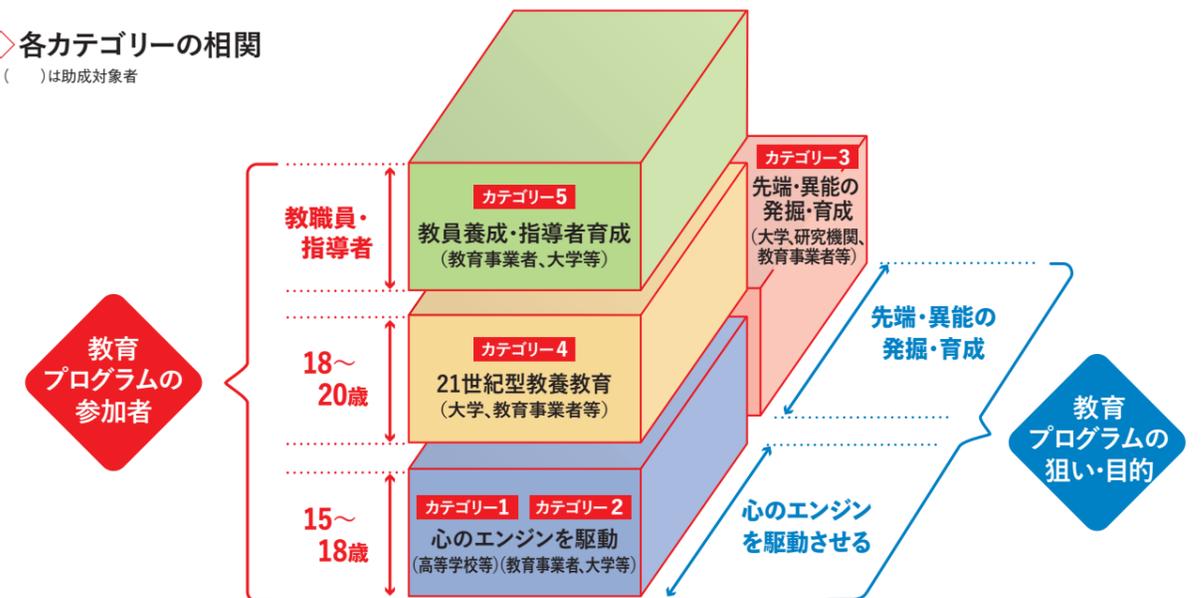
カテゴリー5 「主体的・協働的な学習(心のエンジンを駆動させる学習)を実践できる教員養成・指導者育成プログラム」

- **プログラムの形態**
 - 大学、株式会社、NPO等の教育事業者等が行う主体的・協働的な学習を実践する指導者育成プログラムの開発及び実施。ただし、イベント等数日間の短期プログラムは除く
- **期待する活動イメージ(例示)**
 - ・探究型活動に携わる高校教員・関係者を養成・育成するためのプログラムの開発
 - ・探究型活動の教員養成プログラムの実施
- **助成対象者／プログラム参加者**
 - 教育事業者(株式会社、NPO・社団・財団法人等、法人格を有する

- 団体、教育事業の取組み経験が1年以上あること)、大学等/高校教員・指導者(参加者は、教員免許保有者に限定せず。高校教員を目指す人も含める)
- **金額**
 - 年間500万～1,000万円程度
- **助成期間**
 - 1年間(初年度は9カ月)。取組みの定着を目的に原則3カ年まで(成果報告の内容次第では、継続助成しない場合もあり)

◇ 各カテゴリーの相関

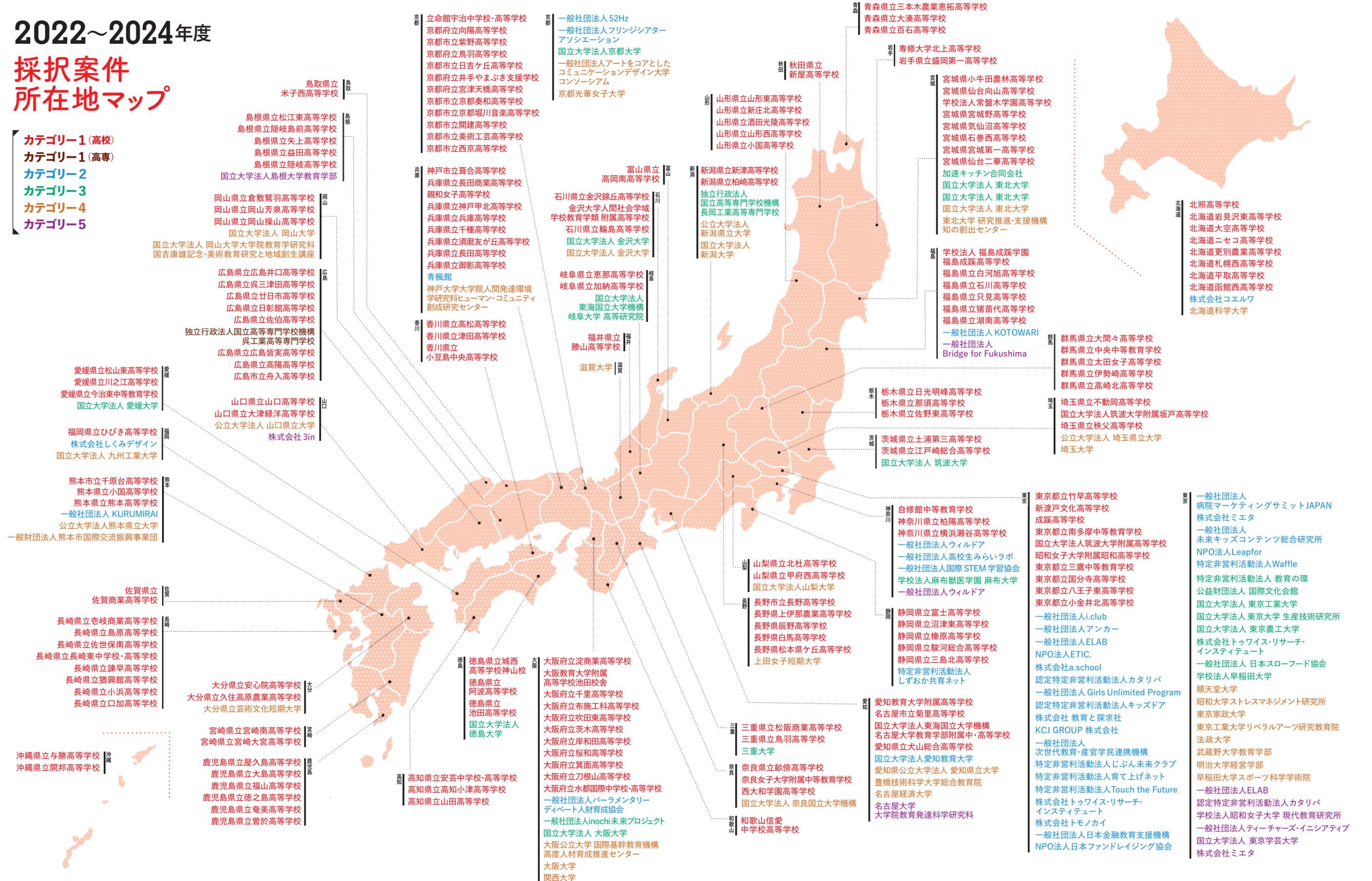
※()は助成対象者



2022~2024年度

採択案件所在地マップ

- カテゴリー1 (高校)
- カテゴリー1 (高専)
- カテゴリー2
- カテゴリー3
- カテゴリー4
- カテゴリー5



◆プラットフォーム事業の推進

助成対象の高校・大学やNPO等に対し、お互いの悩みや課題を共有、解決策を議論できるような交流の場を提供しています。助成先同士が情報交換し、ネットワーク化することで、グッドプラクティスが横展開され、教育活動向上の一助となることを目的としています。3年間の助成期間を終えた「アルムナイ」も助成先同様に参加することができます。

交流会開催

全国の教職員や教育に携わる皆さまが自由に繋がることで、創発・越境、新しいトライが生まれてほしい。そのような思いの下に、財団では助成先の皆さまとの交流会を対面・オンラインを併用し、7月・11月・2月頃に開催しています。

2023年7月22日・29日には、さまざまな地域や立場の方々と対話を深める場としての東京開催と、「同じ地域内の繋がり」ができるよう福岡開催（初の地方開催）を実施しました。22日の東京会場は46名の方、29日の福岡会場は35名の方にご参

加いただきました。

また地域ごとの特色や活動を活かした対話や共感が生まれてほしいという思いから、初の試みとして地域別交流会を勤務地に合わせ、2024年2月17日には東京・名古屋・仙台、2月24日は大阪・岡山・鹿児島と、東日本・西日本に分かれ、各日3カ所で同時開催しました。全会場で161人の方にご参加いただき、最後にはオンラインで3会場を繋げて、各会場の熱気を分かち合っていました。



2023年7月22日 東京会場



2023年7月29日 福岡会場



2024年2月17日 名古屋会場

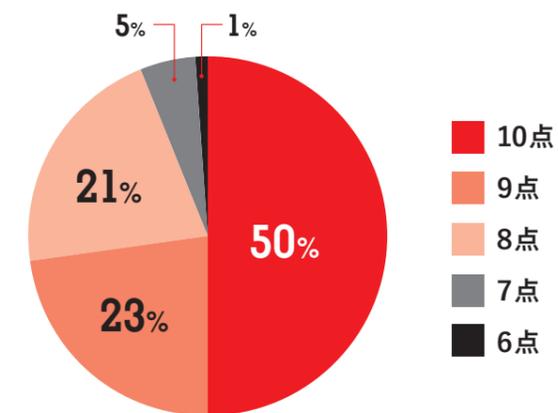


2024年2月24日 鹿児島会場

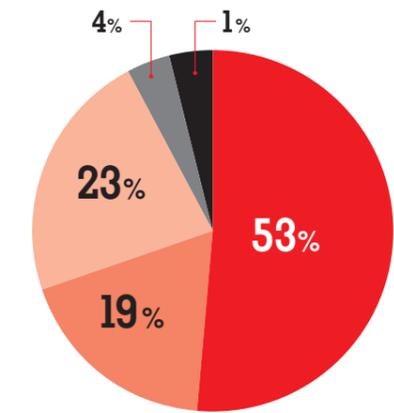
交流会アンケート結果

対面交流会の参加者の皆さまにはアンケートをお願いしております。その結果をご紹介します。

Q 本日のワークショップの満足度を教えてください。(満足度1～10)



2023年7月22日・29日の回



2024年2月17日・24日の回

※5点以下の回答はなし

参加者の声

- ◆教員以外の外部の団体の方々の視点が、教員である自分には新しいものだった。社会との繋がりが、外部団体の方々のほうが密であると感じた。自分自身もっと動き、教育をより良くする方法を多角的に考えていきたい。(カテゴリー1)
- ◆今後の資金の工面についてアイデアを共有し、一つの可能性(クラファン等)を得ることができました。やっぱりリアルで話をするのは素晴らしい。(カテゴリー1)
- ◆先生は忙しいのだと再認識。「楽しい」の反対は「～ねばならない」であることに気づいた。久しぶりに参加者側でイベントに出たので、いろいろ考えて楽しかった。(カテゴリー2)
- ◆生徒の将来に向け、さまざまな切り口から議論でき、私自身もモヤモヤしていた考えを言語化することがで

- きた。情報があふれる中で、求めている人に情報が届けられるよう、連携が必要ということも再認識できた。(カテゴリー3)
- ◆高大連携・接続教育は、若い人の成長という視点から重要だということが分かった。また高校でさまざまな探究学習や先進的な取組みがされていることを知った。高校の探究学習コンテストの審査員をしているが、そこで活かすとともに、大学でのPBLへの接続と発展に活かしたい。(カテゴリー4)
- ◆「心のエンジン駆動」という同じ理想を持っているからこそ、悩みやその取組みから得られる気づきがたくさんあった。こんな学校もあるのか、そんな土台がすでにあるならこんなこともできるかもというんな妄想が広がり、これからは楽しみになる時間だった。(カテゴリー2・5)

▶7月22日・29日の東京・福岡開催の交流会レポートはこちら
<https://www.mmfe.or.jp/news/4241/>

▶2月17日・24日の地域別交流会レポートはこちら
<https://www.mmfe.or.jp/news/5646/>



2022年度助成先のカテゴリー1～5の9団体の皆さまに、記念品と目録をお渡ししました。

みらい育成アワード2023

2023年9月24日、JPタワーホール(東京都千代田区)にて「みらい育成アワード2023～知見、実践、その想いを分かち合う～」を開催しました。本アワードは、助成初年度を終えた2022年度採択の助成先の皆さまの中から、特に優れた活動・成果に賞をお贈りするとともに、培われたナレッジやノウハウ、その想いを分かち合うことを目的としています。

当日は理事長の宮永俊一から開会のご挨拶をさせていただいた後、授賞式を行いました。2022年度採択先を対象に、財団の選考委員が、グランプリ、準グランプリ、三菱みらい育成財団賞^{※1}を選出。9団体の皆さまに記念品と目録をお渡ししました。

授賞式後には、グランプリ受賞団体による取組み

事例の紹介、リエントリー^{※2}の助成先の皆さまによるパネルディスカッション、最後にご来場いただいた皆さまでワークショップを実施しました。

※1 対象団体が5～9団体のカテゴリーはグランプリのみ授与。対象団体が4団体以下のカテゴリーは「三菱みらい育成財団賞」を授与

※2 グッドプラクティスの普及・横展開を目的に、3年間の助成終了となったプログラムの一部をリエントリー採択として新たな助成を行うもの

受賞結果

グランプリ

カテゴリー1(第1地区)
新渡戸文化高等学校
カテゴリー1(第2地区)
神戸市立葺合高等学校
カテゴリー2
株式会社 教育と探求社
カテゴリー3
国立大学法人 京都大学
カテゴリー4
学校法人 早稲田大学 スポーツ科学学術院

準グランプリ

カテゴリー1(第1地区)
島根県立松江東高等学校
カテゴリー1(第2地区)
鹿児島県立福山高等学校
カテゴリー2
一般社団法人 ウィルドア

三菱みらい育成財団賞

カテゴリー5
一般社団法人 ELAB



当財団の宮永俊一理事長より開会の挨拶をさせていただきました。



京都大学総合博物館の塩瀬隆之氏をファシリテーターに、リエントリーに採択された東京都立八王子東高校、長崎県立長崎東中学校・高校、一般社団法人 i.club、国立大学法人筑波大学とでパネルディスカッションを実施。



参加いただいた2022年度採択先の皆さまには3～4人のグループを作っていただき、「これまでの話を聞いて思ったこと、感じたこと」「助成期間終了後も活動を継続・発展していくためには？」について話し合っていました。

イベント開催

◆理系BLOSSOM開催

2023年12月16日に、理系進学に関心を持つ女子高校生を対象にしたオンラインセミナー「理系BLOSSOM」を開催しました。理系学部に進む女子生徒が少ないと言われて久しい中、理系女子を応援するために開催しているセミナーの第2回目になります。「理系に進むとその専門で進路が決まるのか?」「会社でどんな仕事に就けるのかイメージが浮かばない」。こうした進路選択の悩みを解消し、将来のキャリアを具体的に描いてもらうことを目的としたセミナーです。今回は全国から83人の高校生に参加いただきました。

三菱グループ各社で働く理系学部出身の若手女性社員と、理系の大学・大学院生の皆さん、それぞれ33人にご協力いただき、社員・大学生1人ずつと高校生2～3人のグループに分かれ、ZOOMブレイクアウトルームで対話をしていただきました。

まずは社員から、高校や大学でどんなことを学んできたのか、今はどんな仕事をしているのか、その仕事を選んだ理由、大事にしてきた想い、これからのようなことに挑戦したいか、といったことについてプレゼンした後に、高校生と対話していきました。違うグループで3回対話を実施し、終了後には高校生から「理系に進んだからといって理系の職業にしか就けないというわけじゃないとわかった。そのことで悩んでいたのが聞けて良かった」「今回のイベントに参加したことで、『理系に進んだら、将来研究職だけじゃない!』と勘違いしていたこと



がわかった」「一見関わりのないようなことであっても、イノベーションのきっかけになるかもしれないというお話があった。私は関わりがなかったことは、シャットダウンしてしまうところがあったので、自分の考えを見つめ直す良いきっかけとなった」「最初は知らない人同士で緊張していたが、皆さんの質問や意見を聞くと、自分にはない考えなどもあって驚かされたり、気づかされることがあった。学校ではできない貴重な経験ができた」などの感想が出ました。

セミナー後のアンケートでは、48人から回答があり、全体の評価については5点満点中、5点が40人、4点が6人、3点が2人と、高い評価を頂きました。

協力企業:AGC、キリンホールディングス、キリンビール、日本郵船、ニコン、三菱化工機、三菱ガス化学、三菱ケミカル、三菱商事、三菱地所設計、三菱自動車工業、三菱重工業、三菱製鋼、三菱倉庫、三菱総合研究所、三菱電機、三菱マテリアル、三菱UFJフィナンシャル・グループ、三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、明治安田生命保険(順不同)

▶第2回 理系BLOSSOM 開催レポートはこちら
<https://www.mmfe.or.jp/special/00007/>

参加者の感想

◆「理系」と聞いた時に思いつく職種だけでなく、将来の仕事考えた時に思いつかないような、でも私たちの暮らしを支えているような仕事をしている方にもお話を聞けたので、進路の選択肢が広がられたという面で良かった。講師の方も皆私たちに親身に寄り添って話をし、最後にはアドバイスまでくださった。初対面かつZoomだったが、壁をあまり感じず、人生の先輩である講師の方にお話を聞くことができた。

◆大学での研究内容に直結した職種でなくても、理系の論理的思考を活かした就職先があると知り、将来の選択肢が広がった。また、他の高校生や大学生とも対話する中で自分にはなかった視点も取り入れることができた。全体の雰囲気も終始和やかで、聞きたいことを何でも相談できる環境だったと思う。この機会を提供して下さったすべての方々に感謝の気持ちでいっぱい。

Special Talk
座談会

人生100年学びのスパイラルをどう持続可能にしていくか

高校での探究の学びを、大学ひいては社会とどう繋げていくべきか。

助成先である高校と大学の先生方に集まっていただき、高校側・大学側から見た探究活動の課題や、大学での最新の動きなどを語っていただきました。

大学でも見て取れる 高校での探究の「成果」

妹背 久賀先生は、大阪大学が主催されている「高校教員のための探究学習指導セミナー」に参加されたんですね。

久賀 2019年に初めて参加しました。大阪大学のセミナーがなければ、本校の探究はなかったと思うほどの深いご縁です。

進藤 大阪大学が高校の探究のサポートを始めるにあたって、まずは先生方の心のエンジンを駆動させることが肝要だろうと教員向けのセミナーを開催しました。受講された先生方が各校で先導者となって、探究を広めてもらうだけでなく、1カ所に集まってもらうことで、先生同士の繋がりを作ればという狙いもありました。このセミナーも今年で10年目となり、正直、こんなに長く続くとは思っていませんでした。

妹背 それだけ教員側のニーズが高いということですね。久賀先生は自校に戻って探究の枠組みを作ってこられたのですよね？

久賀 セミナーで学んだ内容を整理してみると、私たち教員が普通の授業で実現したいと願っていることそのものでした。しかし、実際に校内で共有し進める中ではさまざまな壁がありました。まずは生徒がますます忙しくなるのではという懸念です。部活動への影響を心配する教員の声もありましたし、受験勉強が気になり探究に前向きになれない生徒もいました。それでも、受験で成果を上げた生徒の多くは探究も頑張っていた印象が強いです。

吉川 私も高校時代に探究に熱心に取り組んでいた学生は、大学に入っても他の科目のパフォーマンスがいいと感じています。私の担当科目は、座学のレクチャー形式ではなく、グループワーク主体なのですが、履修している学生は、「この科目を通して何を



進藤修一氏
大阪大学 副学長(全学共通教育担当) /
全学教育推進機構長 /
人文学研究科(外国学専攻)・外国語学部教授

久賀史恵氏
名古屋市立菊里高等学校
教諭 探究部主任

吉川 幸氏
岡山大学
教育推進機構 准教授

妹背正雄氏
ファシリテーター
三菱みらい育成財団 常務理事

身に付けるか」という意識が高い気がしますし、年々レベルが上がっていると感じています。

妹背 この学生は高校で探究をしっかりやってきているなど、分かるものですか？

吉川 やっぱり分かりますね。

進藤 そのような意味では高校時代の探究活動は決して無駄になっていないということですね。

吉川 全く無駄にはなっていませんね。探究に真剣

に取り組んできたか否かで、学びに対する積極性が違うと感じています。特に私は探究と比較的親和性が高い地域連携の科目を担当しているからかもしれませんが、学生たちが中学や高校で持っていた問題意識を、大学では定性的・定量的なリサーチなどを組み合わせて、別のアプローチで考え直せるとらえています。そこに学部の専門性を踏まえてどうアプローチしていくのか考えてもらうようにして

います。

進藤 大阪大学でも、ある学生がインターンシップを経験してみたらとても有意義だったので、そのことを後輩に伝えたい、研究室でインターンシップ制度を作りたいと提案してきました。その学生は高校の時に探究をしっかりやってきていたようです。また、彼以外にもいろいろ主体的な提案をする学生が出てきたりするのを見ると、高校の探究の効果が始めていると感じますね。

探究を経験してきた新入生に 大学はどう対応すべきか

妹背 2025年度の大学入学者は、高校の新しい学習指導要領で「総合的な探究の時間」を必修で経験してきた学生になるわけですね。岡山大学では、そうした学生を対象にした新しい科目を作られていると伺いましたが。

吉川 新入生全員必修の「知の探研(たんけん)」という科目を開発中です。高校での探究と大学で取り組む研究との間を橋渡しするような役割を想定しています。学生は学部横断でクラス編成し、教えるほうは文系と理系など異なる分野の教員がペアになって、専門分野を生かして探究学習を見守るというものです。昨年度のトライアルでは「数値で違いを示す」という共通テーマのもと、運動学の先生がボトルフリップ^{※1}が上手な人と下手な人の違いを実際にアプリを使って実験して説明しました。私は地域の違いを数字で表すために、RESAS^{※2}などの統計データを使って実証してみせました。専門分野が違って、研究方法は基本的には同じであるということを学生が実感できたようで、大変好評でした。

※1 一定量の液体が入ったペットボトルを空中に投げつけて回転させ、底を下にして直立させる遊び

※2 経済産業省と内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が提供している、産業構造や人口動態、人の流れなどに関する官民のビッグデータを集約・可視化するシステム

進藤 大阪大学では2019年度に少人数セミナー型初年次導入科目「学問への扉」を全学必修科目として開講しました。大学の全教員が持ち回りで担当し、人文科学、社会科学、自然科学を網羅した約250コマの授業から、新入生が興味を持った講義を選択できるようになっています。「高校で探究学習が本格化する中、旧態依然とした教養教育を受けさせると、学生のモチベーションが下がるのでは」という懸念からスタートした科目ですが、学生には好評ですね。

久賀 今のお話を聞き、中学から高校に進学した時にもそのようなプログラムがあるといいなと思いました。最初に探究は楽しいと体験できればその後スムーズですし、他の学びにも活きます。

吉川 自分の人生を自分でデザインできるための知識を得ていく、その楽しさを体験するのに探究の授業をうまく使えるといいですね。

久賀 今、名古屋市は一般教科でも探究的な視点を入れた授業改善の取組みを進めていますし、私自身探究に携わって自分の教科の授業も変わりました。例えば、担当の英語の授業では、教科書の一文「地雷は人を殺すために作られ、その後何十年も被害を及ぼす」から、問いをたくさん作りましょうと。どこの国が作っているのか、被害が多い地域はどこか、

などいろいろな問いが出て、それに対して仮説を立て、その後で教科書を読み進めていくと、その問いに対する答えがあつたりなかったりして、生徒も私自身もより楽しんで授業を進めることができるようになりました。

外部の刺激が子どもたちの内発的な動機を呼び覚ます

久賀 今日は大学の先生がいらっしゃるので、高大接続について伺ってみたいと思い、最近もやもやしていた疑問「高大接続とは、誰が何のためにやるのか」についてまず同僚たちと話してみました。高校3年間と大学4年間の7年間を通じて、子どもたちがよりよい人生を送ることができるようサポートするための枠組みであり、その中でどのようなことをしてあげられるのかを考えることだ、というのが今のところの私の答えなのですが。

吉川 おっしゃる通り、私たちは一人ひとりの学生を見ると同時に、プログラムを提供する側の視点も入れて考えなければなりませんよね。私の場合は、高大接続だけでなく、先々社会に送り出していく時の基礎的なプログラムをどう用意していけばいいのかということも、同時に考えなければいけない立場にあると考えています。要は「学びの地図」のようなものを学生たちに見せていかなければならない。こっちのルートを行けばこうしたことが学べる、あっちのルートに行けばこうした知識を身に付けられるという道しるべみたいなものを、教養教育科目でも持たせるべきなんだろうなと思っています。

進藤 その「地図」という言葉、いいですね。大阪大学では「人生100年時代、どうやって学んでいくのか」という大きなテーマを掲げています。小中学生を対象にした「めばえ適塾」という理系の教育プログラムも実施していますが、これもそのテーマに沿ったものです。また高校生に対しては、2015年から大学での学びや研究を体験してもらうSEEDSプログラムを始めています。当初は生徒集めに苦労しましたが、今は多くの志願者が集まり、高い評価を受けています。小中高大の中で、彼女彼らたちが行きたい方向にどう導いてあげられるのが求められ

ていると感じますね。

妹背 進藤先生は、大阪大学の教養教育全体を見るお立場にあると思いますが、今大学の教養教育はどのように変わりつつあるのですか。

進藤 大阪大学は教養教育科目が約2,000科目ありますし、学部学生は一学年3,300人ほどおりますので、教養教育改革もなかなか大変で、できることから、にはなります。最近では高校の探究でも、また一般にもSDGsという考えが浸透してきて、関心を持つ学生も増えています。そこで、SDGsを理解するための「OU-SDGsプログラム」を今年度からスタートさせました。大阪大学の教員と企業に所属するゲストスピーカーの全15回リレー講義「阪大SDGs学入門」を必修とし、それ以外に選択科目を30科目用意し、所定の科目を履修すれば修了書も出る仕組みです。

妹背 大阪大学では高年次教養教育にも取り組んでおられますよね。

進藤 1年生で受ける教養教育はどうしても学生が“義務感”を持ってしまうとすることがあります。しかし3・4年生になると、自分の研究を進めるうえで、必要な教養教育が履修できていなかったことに気づく学生も多いため、高年次教養教育科目を設定しました。所属している研究科・学部以外の部局開講科目を履修できますし、それらが高度教養教育科目の単位として認定されるような仕組みとなっています。

吉川 必要に迫られてという学生もいるでしょうが、シンプルに学生の知的好奇心を高めるいい仕組みですよ。

進藤 私たちがあれこれ言うより、自ら視野を広げようという気持ちが内発的に出てくると学生のやる気が違いますね。なので、履修したい時に履修できる仕組みを外発的に作っておけば、学生たちの心のエンジンに火がつくんだと思います。もう一つ、大阪大学では学生の自主研究を奨励しています。自分がやりたい研究の計画書を作らせ、先生を探して口説くのも学びの一つなので、学内からアドバイザー教員を自ら探させます。申請が通れば研究費を出しますが、自分の卒業研究をテーマにするのはNGな



進藤修一氏

大阪大学 副学長(全学共通教育担当)/全学教育推進機構長/
人文学研究科(外国学専攻)・外国語学部教授

ので、1・2年生が主な対象となります。経済学部の学生がメダカの研究をしたり、すごく面白いんですね。

吉川 学生には自ら学びたいという内発的な動機を持ってほしいと思っていますが、内発を呼び覚ますために外発で刺激を与えることは必要ですよ。探究でいうならば、日常の中に探究という少し異質なものをどう取り組むかという工夫が必要で、例えば「非日常」的なことを入れてみたりする。

久賀 本校でも、弁護士会の方にディベートを指導していただいたり、発表の場に大学の先生においでいただくといった「非日常」を取り入れています。また卒業生の方には、探究に協力いただいて、授業に入って生徒の個人面談をしてもらっており、生徒には大きな刺激になっています。

進藤 大阪大学がかつて主催していたSGH甲子園というイベントには、いろいろな学校から子どもたちが集まりましたが、実施後に交流会の場を設けていました。高校生はそこで友達を作るのが楽しみだったようすし、また他校の生徒からコメントをもらえるというのも刺激になっていたようです。こうした「非日常」を入れるのは効果的ですよ。



久賀史恵氏

名古屋市立菊里高等学校 教諭 探究部主任

重要なのは、 探究の成果ではなくプロセス

久賀 先ほど進藤先生と吉川先生がおっしゃったように、生徒の内発的な動機を呼び覚ましたと思うのですが、探究のテーマ設定は本当に大変で、エンジンがかかるまで生徒・教員双方にとって苦しい時間となっています。生徒の中にある知識や経験では出てこない、出てきてもそれが研究になるかどうかの見通しが本人も教員も分からない…。しかし昨年度は高大接続の一環で、市立大学の先生が週3日常駐して助けてくださいました。例えば、「最高の卵かけご飯を作る」というテーマに対して、私たちは研究テーマとして適しているのか疑問でしたが、研究の指導に長けた大学の先生は違う感覚をお持ちで、「これはいいね!」と、研究アプローチのアドバイスを頂けて前に進めたということがありました。「最後まで溶けずに食べられるアイス」というテーマも私たちは探究になるのか判断に困りましたが、試行錯誤の実験の末、面白い研究になりました。

吉川 探究のコンテストに出るのはある種、成果発表的なニュアンスがあると思うのですが、教育活動の中での探究で重視すべきはプロセスだと思っています。本当に「溶けないアイスクリーム」が作れたら、

これは世紀の大発見ですよ。でも誰もそこまで求めていない。試行錯誤のプロセスの中で、生徒が自分で設計して自分で歩いてその結果を発表する、ということが素晴らしい学びなのだと思います。

久賀 ついつい教員も生徒も「成果」が気になってしまい、「成果」が出れば校内で探究を推進しやすいといった面もあります。例えば、総合型選抜で探究活動を活用するなら、どのレベルの「成果」が評価され、探究のどの部分が評価されるのでしょうか。

吉川 総合型選抜をされる各大学の考え方にもよるので、一概には言えませんが、期待されるのは、探究の経験から何を学んだか、ではないでしょうか。探究する中で毎回振り返りをきちんとし、自分の中でどんな変化が生まれたのかをはっきりと自分の言葉で言える学生は大学でも高いパフォーマンスを発揮します。冒頭で、学生が探究をやってきたかが分かるとお話ししたのは、こうした部分です。具体的経験から省察的観察をし、抽象的概念化して次の実験に移るといって、デービッド・コルブ(アメリカの組織行動学者)が提唱した経験学習サイクルを回せるかどうか大切ではないでしょうか。進藤先生はいかがですか？

進藤 吉川先生のおっしゃる「プロセスが大事」というのは、まさにその通りだと思います。最近の子どもたちはプロセスを飛ばしてすぐに答えを求める傾向がありますね。また私の嫌いな言葉ですが「タイプ(タイムパフォーマンス)」も重視する。でも、いろいろやってみてダメでした、でも構わないんです。何がどうダメだったかを学び、次にどう活かそうとしたのか、知的格闘をしたプロセスが分かればいいと思うんです。私もドイツ留学時代に、さんざん教授から研究テーマにダメ出しされて相当悩みましたが、そのプロセスがあったからこそ何をやりたいのかが見えてきましたし、今の自分があると感じています。

久賀 そここまで専門的に深められていなかったり、際立った成果に結びつかなくても、振り返った時に自分の学びをメタ認知できて、次に繋がれば、その探究には意味があったということですね。

吉川 その時点での取り組みで思うような結果が出なかったとしても、次の年はそのプロセスを踏まえて、



失敗しても、次にそれをどう活かそうとしたのか その知的格闘したプロセスが重要

違うテーマで、違う取り組みができるかもしれない。学びは人生を通してスパイラルしながら上がっていくものですよね。

進藤 そうですね。スパイラルだから切れ目はないんですよ。学び自体はそうあるべきであり、我々のサポートも持続可能にしていくべきだとは思いますが、こうした認識を持つ教育関係者はまだまだ多くないと感じます。ですが、三菱みらい育成財団の取り組みがすそ野を広げていくことに繋がっていきますし、こうして縁を得た皆さんと一緒に取り組んでいかなければと改めて感じました。

吉川 私も皆さまのお話を聞いて、勇気づけられることがあった一方で、探究を進めていくうえでのさまざまな障壁があるのだなとも思いました。大学側にいる身として、高校生が大学生になり、大学生が社会人になるという二つのトランジション(移行)を

サポートできれば、との思いを強くしました。

久賀 高校を取り巻く今の状況の中で探究を推進していくうえではさまざまな課題があって、意気消沈することもあるのですが、探究がもたらすプラスの影響はたくさんあり、それは両先生が実践されて感じておられることと同じだと分かりました。この対談を通じて、自分が直面する壁を構造的なものとして大きな視野でとらえることができました。心機一転頑張りたいと思っています。

妹背 今日は皆さまそれぞれのお立場での取り組みや課題がよく分かりました。また、財団の助成先同士の繋がりをきっかけに、生徒たち、学生たちや先生方の心のエンジンを駆動する取り組みをさらに発展させることができたと感じました。今日はありがとうございました。

2024年7月2日 大阪大学にて



吉川 幸氏

岡山大学 教育推進機構 准教授

2022年度
カテゴリー

1

東京都立南多摩中等教育学校

「合言葉はCross the border、自分の枠を越える探究学習」

～多様な学びによる質の高い探究学習を通じて、生徒のキャリア形成を図る～

中高一貫校ならではの
系統的な探究学習を実践

1908年開校の歴史を持つ東京府立第四高等女学校を母体とし、2010年に開校した南多摩中等教育学校では、中学校にあたる前期課程と高等学校にあたる後期課程、合わせて6年間の中高一貫教育を行っている。「高校受験のない“ゆとり”を活かして、6年間を見通した教育を行えるのが本校の特徴であり、その強みは探究学習にも発揮されています」と話すのは、フィールドワーク推進室主任として、同校の探究学習を牽引する田中駿一先生だ。

前期課程(1～3年生)では、学年ごとに設定したテーマのもとグループでの探究学習を実施。1年生の地域探訪に始まり、2年生は人々の創意工夫が詰まった〈モノ〉にまつわる歴史や文化を紐解き、3年生は科学的な検証活動を行う。これら3年間のグループワークで培った基盤をもとに、後期課程(4・5年生)では、「ライフワークプロジェクト(LWP)」として、少人数のゼミに分かれて、それぞれ自ら設定した課題の探究に取り組んでいく。

加えて注目すべきは、発表する機会の豊富さだ。1年生はポスターセッション、2年生は「モノ語り」と題した冊子、3年生はプレゼンテーション、そして4・5年生の2年間で4,000文

字の論文と、それぞれ探究の成果を取りまとめ、年度末の「成果発表会」で発表される。他学年の生徒や、学外からの参加者を前に発表し、客観的な視点からの質問や講評を得ることは、生徒たちにとって貴重な経験となっている。「本校で展開するフィールドワークや学外活動における外部との接点の多さは、大学が提供するプログラムと遜色ないようで、高校時代に経験した探究学習が大きな財産になっているという声を卒業生からよく聞きます」と田中先生が話すように、中高一貫校の強みを活かした質の高い探究学習が、卒業後に大学や社会で求められる論理的な思考力や表現力を身に付ける絶好の機会となっている。

学外との多様な接点を通して
キャリアデザインを描く

同校の探究学習におけるもう一つの大きな特徴が、学外との連携の多様さだ。大学と連携したSTEAM教育、日本政策金融公庫など企業との連携によるビジネス視点からの探究学習、地域社会との連携による地域課題の解決を目指したフィールドワーク、さらにはベトナムやイタリアなど海外校との文化交流やSDGs共同学習など、組織や地域・国境を越えて多彩なネットワークが構築されている。

これら学外ネットワークは、歴代の

担当教員たちの人脈に加え、生徒自身の興味・関心から生まれる「出会い」によって拡充されてきたものだという。LWPにおいて生徒たちがテーマを決める際に、「この分野の研究者や企業に取材したい」といった声が挙がると、まずは生徒自身に取材先を探してコンタクトを取らせている。「もちろん断られることもあります、そうした経験も含め、自ら社会との接点を持つことで初めて気付けることがあります」と田中先生はその意図を説明する。

また、多彩な探究学習に取り組む生徒たちをきめ細かくサポートするため、教員による指導に加え、卒業生がティーチングアシスタント(TA)を務めている。同校では卒業生の進路をデータベース化し、そこからTAとしての参加を募っているが、母校への思い入れもあって積極的な協力が得られているという。「学外との幅広い接点に加え、世代の近いTAとの対話を通じて、生徒たちは自身の興味と卒業後の進路を接続させていける。それも本校ならではの強みです」(田中先生)

探究学習を実施するうえで田中先生が心掛けていることの一つは、大人も一緒になってワクワクすること、もう一つが、生徒の希望をそのまま受け入れるのではなく、時に「押し戻す」ことだという。「それが本当にやりたいことなの?」「社会でどう役立つ可能性があるの?」と問いかけることで、生徒たちが改めて自身の探究テーマや社会との関わりについて見つめ直す機会になっている。「社会に出れば直面する『躓き』を、あらかじめ経験しておくことが将来の糧になる」という田中先生の言葉からも、同校の学びが生徒たちのキャリアデザインを強く意識したものだということが理解できる。「ワクワク感」と「実社会との接点」を重視した同校の探究学習が、生徒たちの「学びの意欲」を育み、実社会で活躍できる人材を輩出することが大いに期待される。



高尾山にある「高尾ビジターセンター」と連携して登山客向けのワークショップを実施。2024年度は、高尾山の自然の魅力を英語で紹介するという、インバウンド向けの取組みを予定している。

毎年3月には、1・2年は模造紙を使った発表、3年生はPowerPointによるプレゼンテーション、4・5年生はポスター発表を行い、1年間の研究の成果を来場者へ報告している。

2022年度
カテゴリー

1

鹿児島県立大島高等学校

奄美から日本へ、奄美から世界へ～奄美の高校生による課題研究発表会～

奄美群島の全高校と
大学・研究機関等が参加する
コンソーシアムを結成

鹿児島と沖縄の間に点在する8つの有人島から構成される奄美群島。なかでも最大の面積を持つ奄美大島に位置する大島高等学校では、「持続可能な奄美を牽引するリーダーの育成」を目的とした探究学習に注力している。「生徒たちの学ぶ意欲やプレゼンテーション能力などを養う貴重な機会ととらえ、積極的に取り組んできたものの、離島ならではの課題を抱えていました」と貴島邦伸校長は話す。

一つは発表の機会が乏しいこと。奄美群島内の各高校は小規模化が進み、校内での発表会だけではモチベーションが高まらず、客観的な意見・批評を得ることも難しい。そこで、三菱みらい育成財団の助成のもと、2023年3月に群島内4校による「課題研究発表会」を開催し、大きな手ごたえを得た。

もう一つの課題は、外部協力者の確保が難しいこと。「探究学習は生徒それぞれがテーマを設定するため、教員による指導だけでは限界があります。学外専門家の協力をお願いしたいところですが、島内に大学がないのがネックでした。しかし、2023年11月に島内で開催された東京大学大気海洋研究所のシンポジウムに参加したことで可能性を見出せました」と貴島校長は振り返る。世界自然遺産に登録された豊かな自然や、独自の文化・伝統を持つ奄美群島には、多様な分野の研究者の視線が注がれている。離島ゆえに研究員を駐在させるのが難しいため、島内に住む高校生との連携は研究者にとっても大きなメリットがある。そこで、奄美群島を研究フィールドとする研究者に協力を打診するとともに、群島内の各校に参加を呼びかけた。こうした活動に関係者も賛同し、群島内の全9高校と、鹿児島大学・東京大学大気海洋研究所・志学館大学・第一工科大学、



発表会後の生徒交流会の様子。普段は会えない群島の高校生たちが、奄美の未来について話し合った。



コンソーシアム設置宣言後の記念写真。コンソーシアムやサミットの関係者が一堂に会した。

1企業で構成された「奄美群島高校探究コンソーシアム」の誕生につながった。

学校や地域の枠を超え、
互いに刺激を与え合う機会に

2024年3月、三菱みらい育成財団や地元企業等からの協賛や後援を受けて開催した「高校生サミット in 奄美」は、生徒委員長によるコンソーシアム設置宣言で幕を開けた。奄美群島全12市町村を代表して奄美市長による祝辞の後、奄美民謡のアトラクションや基調講演を経て、各校代表による課題研究発表会が行われた。発表した生徒たちは、経験したことのない規模の聴衆を前に緊張も見られたが、それぞれの成果をしっかりと発表できたことが大きな自信につながったという。また、群島内の各校からユニークな研究成果が発表され、同じ群島内でも異なる課題や視点、発想があることに気付かされた。さらに、島外から参加したスーパーサイエンスハイスクール指定校2校による発表も大きな刺激を与えた。「島外からハイレベルな高校を招待したのは、生徒たちに“井の中の蛙”になってほしくなかったから。同世代でもこれだけのことができる実感することが、さらなる高みを目指す原動力になります」と、コンソーシアムの事務局長を務める中渡瀬 将之先生は話す。

発表内容に対しては、研究者から専門的な知見に基づく講評があった。厳しい批評もあったが、生徒たちは「自分たちの成果を多くの大人が真剣に評価してくれている」と前向きにとらえていたという。一方で、発表を聞いた聴衆からは、「高校生がこれだけ真剣に奄美の将来を考えてくれている」という驚きがあり、大人も含めた参加者すべてが刺激を与え合う場となった。また発表会後の生徒交流会では奄美の未来について、生徒たちが真剣に語り合う姿があった。

今後の課題は、この取り組みを持続可能なものにすることだという。現在、オール奄美での支援体制づくりに向けて関係機関に働きかけている。また、個人の意欲・熱意に頼った活動では長続きしないと考え、コンソーシアムには団体として登録いただき、島外研究者とのネットワークをデータベース化するなど属人化させない仕組みも作っている。さらに、今回のサミットの熱気と興奮を、参加できなかった方々や後進にも共有してもらえよう、映像コンテンツを作成・活用している。ここでは学校の枠を超えた交流を楽しむ生徒たちを見ることができ、「いずれは学校をまたいだグループで探究に取り組む生徒たちが出てきてほしい」との貴島校長の願いが、遠からず実現することを予感させた。

2023年度
カテゴリ
2特定非営利活動法人しずおか共育ネット
SERENDIPITY—SHIZUOKA TANKYU COLLECTION高校生のための高校生による
高校生の探究イベント

2024年1月21日、静岡駅前のホテルで、しずおか共育ネット主催の「Shizuoka Tankyu Collection(STC)」が開催された。メイン会場ではトークフォークダンス※や、スペシャルトークショー、探究学習やボランティア活動の発表、SDGsやエシカルに配慮したファッションショーなどを実施。その隣では「探究緑日」コーナーを設置して、高校生や小中学生が開発した商品の販売やカフェ、水産高校が育てた金魚の「金魚すくい」などが行われた。また、静岡で活躍する方々との対話型プログラムや相談コーナーも設けられた。

このイベントの企画・運営を担当したのは、県内全域から応募した36人の高校生による実行委員会。その他、開催に関わった高校生は69校201人、当日の会場には大人も含めて約500人が来場し、大盛況となった。

しずおか共育ネットは、10年以上教育活動に関わり、現在は主に静岡県内の高校のキャリア教育コーディネーター、探究学習コーディネーター、定時制高校における居場所づくりの三つに取り組んでいる。「探究学習コーディネーターに取り組む中で、探究に対して“やらされ感”を持っている教員や生徒

が多いと感じ、校外で何か仕掛けを作れないかと考えていました」とNPO法人しずおか共育ネット代表理事の井上美千子さんは話す。ヒントとなったのが、探究学習コーディネーターで関わっている静岡市立高校の女子生徒2人の事例だった。探究活動の一環としてフィールドワークをしたことがきっかけで、地域と連携したプロジェクトを実施し、「マイプロジェクトアワード」などの外部のイベントに出て自信をつけていった。彼女たちの行動に憧れる生徒が校内に次第に増え、学校全体の探究の雰囲気を変えていったという。「彼女たちのように、校外で活躍し、各学校に戻ったときに探究のロールモデルとなって、探究活動を活性化したり、校内の雰囲気を変える生徒を増やしていこうという狙いからSTCを企画しました」(井上さん)

約3カ月間で見られた
生徒の変化

2023年10月にスタートしたSTCプロジェクトでは、まず実行委員にSTCで何がしたいのかを出してもらい、そのテーマに沿ってプロジェクトチームを結成。各グループには、しずおか共育ネットのサポーターである地域の方や教員の大人1人と大学生1人が伴走しながら、プロジェクトの実現に取り

組んでいった。当初は、テーマが決められない、授業や部活が忙しくてプロジェクトが進まないなど、いろいろな課題が出てきたという。大学生サポーターの高橋奈那さんは、「大事なことを決めるのも当初は、大学生に頼ってくるという状況でしたが、しばらくすると、自分たちの悩みを共有して、知恵を集めて最適解を導き出す、という流れが加速化していきました」と話す。また、伴走者として関わった静岡市立高校の小林大介教諭は、「最初は自信なさげだった生徒もそのうちにグループを引っ張っていくようになり、僕らが安心して任せられる存在になってくれました」と当時を振り返る。

事前事後のアンケートからも、「自分には長所がある」「自分の意見をはっきり相手に伝えることができる」「自分には人に誇れる自信がある」などの質問に対し、「そう思う」という回答が大きく伸びており、生徒の成長が見て取れる。

生徒と教員の両軸で
「ロールモデル」の育成を図る

2024年度からは、「学校の探究の“やらされ感”の解消」という課題解決に向け、新たな二つの取り組みを始めた。一つが、STCに実行委員として参加するコースだけでなく、生徒個人、あるいは教員を含めた複数の生徒でチームを組んで学校単位で参加できる「本気の探究コース」を設けたことだ。しずおか共育ネットの伴走者が付いて、探究活動を行ったうえで、STCで発表してもらおうという枠組みになっている。

もう一つが、「本気で探究を伴走支援したい先生向け勉強会」の開催だ。井上さんは、「STCでロールモデルになって学校で探究を変えてくれる生徒だけでなく、私たちの勉強会を通して探究の在り方を理解し、知見を身に付け、自校で広めてもらえる先生方も増やしていきたい」と意気込む。



STC本番では高校生が選んだ洋服を高校生モデルが着用し、エシカルファッションショーを実施。

2024年6月に開催した先生向けの勉強会には、対面で22人、オンラインでは23人が参加。勉強会の最後には、井上さん(中央)が、今後の勉強会やイベントなどをご案内した。

2023年度
カテゴリ
3株式会社 トゥワイス・リサーチ・インスティテュート
国内外の教育イベントに出場して優秀な成績を修めた高校生がチームを結成し、1年間で3分野の課題解決に取り組む高校選抜探究リーグ3シーズンにわたって探究力を
競い合うリーグ戦形式のプログラム

トゥワイス・リサーチ・インスティテュートが14年にわたり開発・提供してきた、中学校・高校の探究学習プログラム「トゥワイス・プラン」は、教材の提供のみならず、先生方に向けた事前研修やサポートも充実した内容で、これまで同プログラムに取り組んできた生徒数は累計12万人にも達する。また、参加した学校・生徒の取組みをプロセス・パフォーマンス両面から評価する「トゥワイス・アワード」という全国大会も毎年行っており、3月には4日間にわたるオンライン・リアル複合形式の本大会を開催し、部門別のグランプリを選出している。アワードでの達成感や他校のプレゼンから刺激を受け、さらにモチベーションが高まったという生徒の皆さんの声に応えるために構築されたのが、オンラインによるチーム対抗の「高校選抜 探究リーグ」だ。

同プログラムでは、1カ月ずつ3つのテーマの探究活動を行い、それぞれ6分間の動画プレゼンテーションを制作する。参加条件は3~5人のチーム員全員が、国内外の教育イベント、各種競技会やコンテストの受賞経験を持っていること。3シーズンのテーマは「芸術・クリエイティブ」「地球的規模の課題」「アントレプレナーシップ」で、それぞれ専門家から出される課題に対して解決策を提案する。

テーマの順番に関しては、日本人としてのアイデンティティという内面の抽象的課題から始まり、世界における具体的な課題、総合的な社会的事業と外へ広がっていくイメージで設定されている。

相互評価の導入により
モチベーションアップ

参加条件に制約を設けたのは、高いモチベーションを持った生徒に限定することで離脱率を減らす目的もあっ



世界規模の社会課題に対しては、原因を深く掘り下げ、解決策を提案する。1カ月ずつ3つのテーマの探究活動を行い、専用サイトとSlackを活用して課題に取り組んだ参加生徒たち。提出された動画プレゼンテーションを全チームが相互審査し、その結果と専門家の評価とを反映したランキング&スコアが発表された。

2024年5月5日、同プログラムのオフラインイベントを東京で開催。この先につながるたくさんの交流が生まれた。



た。50人の参加という当初の目標に対し、予想を上回る21チーム87人が参加。最終ゴールまでの到達率は83%という数字を達成した。

離脱率の少なさは、相互評価の導入によるところが大きい。評点の3割を参加高校生同士が行いフィードバックする。同世代ライバルからの評価は想像以上の刺激をもたらし、ライバルチームのプレゼンテーションからは、次のシーズンへのモチベーションを得る。それが3シーズンあることで、振り返りからの再チャレンジが繰り返される。シーズンごとに理解力が深まることもアンケート結果から見て取れ、発表される動画も確実に完成度が高くなっていった。

大学生メンターの存在も心強い味方だ。5チームに1人の割合で配置され、進捗確認からさまざまな相談、アドバイスまで行ってくれる。

各シーズンのスコアとランキング、審査員や高校生からのフィードバック、メンターとのやり取り、専門家との質疑応答などは全てSlack上で行われる。プログラム終了後には、第1期参加者共通の掲示板のチャンネルも設定され、参加者同士がいつでもコミュニケーションを図れるようになっている。

動画編集スキルを活かした
完成度の高い“作品”

「ICT環境をフルに活用したプログラムは、当社がコロナ禍の頃から試行錯誤を続けてきたもので、ようやく実現できました。成果発表に関しても、プレゼン動画を編集して提出という形式を取りました」と同社の関 峻介さんは語る。動画の長さは比較的短めの6分間に設定。YouTubeやショート動画に慣れ親しんだ高校生たちにとっては表現しやすい長さであり、実際、プロの作品と見まがうほどの、スピード感にあふれた動画が各チームから提出されていた。

2024年5月にはオフラインイベントが東京で開催。全国から6チームが集まり、今回の取組みをまとめた報告や表彰式、プチアイデアソン※、交流会などで親交を深めた。オンラインによる交流会も今後開催していく予定だという。そうした交流から循環型のコミュニティが形成できればと関さんは話す。

既に応募受付中の第2回に関しては、100名の参加を目指して多くの高校にDMを送付したり、SNS広告のキャンペーン展開などを試みている。近未来の日本をけん引する異能の若者が、オンライン上に再び集結する。

2023年度
カテゴリー
4

上田女子短期大学

「デザインの学び」の開発：今日の大学教育の中心をなす「知る」学びと
芸術やデザイン分野で培われた「行う(表現する)」学びを組み合わせる営み新たな挑戦に生まれる葛藤を
乗り越えながら

2022年度からスタートした教育プログラム「デザインの学び」が目指すのは、「知る」学びに「つくる、行う、表現する」学びを組み合わせること。同プログラムの構築をけん引するため、須永剛司特別招聘教授、柿本悠准教授、岡村綾華専任講師のデザイン担当教師3人が着任。須永、岡村両先生はデザイン専門、柿本先生は経営工学専門と、経験や専門が異なることでプログラムに深みが生まれているという。「デザインを学ぶ者にとって『つくる』行為は当たり前であり、そこに自覚と責任を持っています。でも本校の学生は自分が『つくる』側になれると思っておらず、受け取る『消費者』側にいると気づきました。学生たちは自分たちの生活と社会を自分たちが形づくる人のはず。彼女たちがつくっていいんだ、つくれる、つくりたいと思える人に育てたいと考えました」(須永教授)

しかし「知る」と「つくる、行う、表現する」の組み合わせは容易ではない。初年度は、「表現・創作」に焦点をあてるデザイン「専修型」科目の設置から始めた。そして既存の科目教師とデザイン教師が共に組み合わせ方を描く「協力型」から、授業計画から実施まで共に行う「共同型」へと授業を広げ、既存の科目教師が独自で展開する「自

立型」へと発展させる構想を描いている。「2025年度には共同型科目がもっと増えるだろうと期待しています」(須永教授) また岡村専任講師は「新たな試みに対して、学内に『葛藤』が生まれていることは確か。一方で3年目を迎え、『知る』と『行う』の組み合わせに多様な形が見え、相互理解は徐々に進んでいます」と話す。幼児教育学科の酒井真由子教授は、組み合わせについて次のように語る。「初年度に3人の手法を少しずつ取り入れ始めました。昨年度は授業内容の組み立てにデザインの観点からアドバイスもらい、今年度は授業自体にも参加する共同型を進めています。これまで科学的視点のみで見ていた教育現場に、つくり手が持つ『私』という視点が加わる教育的価値に気づき、面白さを感じています」。

学びのフィールドは
裏山から地域社会へ

「デザインの学び」の特徴として、学びのフィールドが地域資源や課題へと広がっていく仕組みづくり「デザインキャンプ上田」がある。学生、教師、附属幼稚園の先生、園児と保護者、地域の協力者などが学校の裏山に直接触れ、感じ、活動する。立木伐採など裏山の再生活動も始まり、伐採木は乾燥させて、創作授業の素材としても活用する。学外からも教室とは異なる深い

学びが創出されることが確認できているという。

学びのフィールドを地域社会に求めた活動もある。学生と老舗和菓子店が協力してショッピングモールのイベントにオリジナル和菓子を出品する活動に伴走した柿本准教授は、「店主からコスト面や衛生面でアイデアがダメ出しされるうちに、地域社会の中で『行う』ことの責任と覚悟が彼女たちに生まれていくのを目にしました」と話す。

地域社会との協働においては、地域貢献・地域交流を目的とした同大学の部署「未来共創センター」が、地域と大学のマッチングや活動の周知、社会や企業が大学に望むことのキャッチアップなど、さまざまな役割を担っている。

新たな学びづくりを支える
「やって・みて・わかる」というセオリー

毎学期末に実施される科目の学びの成果とプロセスを形にして展示する「学びの展覧会」は、学習評価の場を「試験」だけでなく「展覧会」にする試みだ。学びを「見せ合う」という文化を生み出すことは容易ではなかったが、年々展示科目は増えているという。「大学の新たな価値創成を目指す一大プロジェクトのため当然時間はかかりますが、ゆっくりもしてられません。全学一体となって進められる体制づくりが不可欠だと考えてます」(須永教授) そうした大学の変化に伴い、学生の姿にも変化が現れ、いずれの先生もそれを感じているという。変化の背景には、「デザインの学び」が浸透することで、学生たちに「自分たちの学びづくりに参加していいんだ」という意識が育まれてきたこと、高校での「探究の時間」の成果が考えられるという。

上田女子短期大学は来年度から男女共学となり、上田短期大学に生まれ変わる。入学する学生が多様化することにより、「デザインの学び」づくりは、学生たちがリードする形で一層早く進行していくのかもしれない。



「デザインキャンプ上田」の様子。地域の人々と共に裏山(唐臼山)に入り、木に触れ感じ、伐採、製材、加工、何かをつくり、それがどのように終わるのか、あるいは生き続けていくのかを共に考え「つくる」ことの源流から体験し学ぶ。

オリジナル和菓子の商品開発では、答えのない課題に対し地域の専門家と本気で「つくる」ことを行い「責任と覚悟」というものを学んだという。画像は、「スイーツ」という広いテーマから「商品を開発し販売する」という形を決め、実際に形にしたものの説明。

2023年度
カテゴリー
5

名古屋大学 大学院教育発達科学研究科

探究的な学びを通じて個性的で自立的な生徒を育成する教師の洞察力と構想力の育成

教員の洞察力と構想力が
高校の授業を変えていく

生物多様性について調べ、発表した生徒に対し、ある生徒から「動物園は動物愛護的にどうなんだろう」という意見が出る。それを機に生徒たちのディスカッションが活性化していく。教員たちはこの会話記録を読み、「なぜこの生徒は動物園について発言したのか」「生物多様性の発表と動物園はどう関連しているのか、あるいはしていないのか」「この生徒が動物園に強い関心を示した背景はどのようなものか」などについて考えていく。生徒の内側でどのような問いが生まれているのかを洞察する、名古屋大学大学院教育発達科学研究科が進めている教員向け研修の一部だ。

高校の教育では、改訂された学習指導要領が2022年度から実施されたが、主体的・協働的な学びは「総合的な探究の時間」内だけで、教科の授業ではなかなか浸透せず、アクティブ・ラーニングも単発的・散発的な取組みに終わっていることが多い。こうした現状を踏まえ、あらゆる学習機会を通して、探究心を育てる土壌が不可欠だ、と同研修を開発した柴田好章教授は話す。「知識伝達の講義型から、生徒が主体的に問題を発見し解決を図っていく活動型の授業へ変えていく必要がありますが、生徒のやらされ感が強い活動型授業もあれば、講義型であっても優れた教師の授業は生徒の問題意識と学ぶ意欲を引き出しています。重要なのは、教員が生徒の内面や教科の本質を洞察する力、そして授業実践を構想する力だと我々は考えています」

名古屋大学が強みとする
「授業分析」の手法を活用

洞察力と構想力の育成において活用したのが、「授業研究(教員同士が実践の場を通して授業の指導法などを学び合う)」の手法の一つである「授業分



教員の洞察力と構想力の育成を図る研修で講師を務める柴田教授。

析」だ。授業中の会話を逐語記録として残し、それをもとに分析・考察を行い、科学的なアプローチをしていくもので、名古屋大学教育方法学研究室が1950年代から取り組み、強みとしてきた分野だ。

柴田教授も長年この授業分析に取り組み、名古屋大学教育学部附属高等学校をはじめ、魅力的な授業を展開している愛知県内の学校の協力の下、授業を観察し、映像・音声の記録をとってきた。これらのデータをもとに教員研修用の教材開発に、2023年度から取り組み始めた。

23年度は愛知県総合教育センターと連携し、8月、12月に3回、教員向け研修会を実施し、75名が参加した。逐語記録を使った内容の他、「生物を観察し、その結果を共有して一つのデータを作り上げて分析するという授業で時間不足から必要な観察が終わっていない」という状況を想定し、「A.無理に指導案に縛られずに、結果の考察は次の時間に回して、この場合は観察をしっかりと行う」「B.指導案に示した目標を目指し、不完全なデータのまま観察を打ち切って、結果の考察へ移る」のどちらかを教員に選んでもらう、もしくはどちらかの立場になってその理由などをディスカッション・ディベートしてもらおうといった内容もある。「こうした状況はよくあることで、A・Bは正解

でも間違いでもありません。重要なのは、教員がどのような根拠の下に意思決定をしたかということであり、特に大事なはその場の生徒の納得感です。『足りないデータがあるけれども法則がありそうだよね、なんだろうか』と教員が問かけることで、生徒の中に問いが生まれ、もっとデータが集まれば、こういう法則がありそうだという生徒の納得感が高まっていく。こうした授業づくり、構想力が必要だということを研修参加者に伝えていきます」(柴田教授)

参加者からは、「授業記録をグループで分析し合うと、生徒の発言がどのような意図で発言をしたのか、さまざまな見方をすることができて勉強になりました」「子どもの学びの姿から授業について語り合うことの大切さを、実感を持って学べました」といった感想が見られたという。

24年度に向けては、事例を増やしつつ、開発した教材の一部を本やWebなどで発信していくことも検討しているという。また教員が自らの授業の洞察力を評価し、振り返りながらさらなる向上を図れるような、評価基準や測定手段の開発にも取り組みたいと、柴田教授は話す。長年名古屋大学で培われてきた「授業分析」の知見をどのように高校教員養成のプログラムに活用していくのか。進展が期待される。

カテゴリー 1

2022 2023 2024

都道府県順

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2022	北照高等学校	北海道小樽市	ふるさとを支える人材を小樽で育てる探究活動	205名	100万円
2022	北海道岩見沢東高等学校	北海道岩見沢市	「潜在能力(Capabilityケイパビリティ)を掘り起こす」プログラム ～井の中の蛙、大海に飛び出そう!!	400名	200万円
2022	北海道大空高等学校	北海道 網走郡大空町	「3つのPをベースとしたPBL」(1年次「問題発見力」 2年次「問題解決能力」を育む2年間の教育プログラム)	69名	100万円
2023	北海道ニセコ高等学校	北海道虻田郡	「シビックプライドを持ったグローバル人材の育成」 ～ニセコと世界の境界線を溶かしていこう～	72名	100万円
2023	北海道更別農業高等学校	北海道河西郡	「課題解決能力の育成と地域活性化を目指す農業学習の展開!!」 ～更別村との連携を基軸としたプロジェクト学習～	90名	100万円
2024	北海道札幌西高等学校	北海道札幌市	総合的な探究の時間(WRAPs)次世代リーダーへの轍づくり ～さあ、冒険しよう。問いが人を突き動かす、問いが世界を変える～	960名	200万円
2024	北海道平取高等学校	北海道沙流郡	ダイバーシティ&インクルージョンを学ぶ高校 ～科目「アイヌ文化」と多様性、共生・協働をテーマとする 「探究学習」の二つを軸として～	31名	100万円
2024	北海道函館西高等学校	北海道函館市	「函西 Well-being 共創プロジェクト」～志高く、未来を創る～	706名	100万円
2023	青森県立三本木 農業恵拓高等学校	青森県十和田市	三本木農業恵拓高等学校普通科 「さんのう探究—地域共創プログラム開発」(総合的な探究の時間)	200名	200万円
2023	青森県立大湊高等学校	青森県むつ市	グローバル社会における「防災教育」～防災を日本の文化に～	1,300名	200万円
2024	青森県立百石高等学校	青森県上北郡	青森県立百石高等学校普通科「百探—百石の上にも三年探究 プロジェクト」コーディネーターと外部人材を活用した探究活動の活性化	200名	200万円
2022	専修大学北上高等学校	岩手県北上市	「SENTAN—専探—」カリキュラム内の探究的な学びと 課外での自己深化型学習をつなげるプログラム	515名	200万円
2024	岩手県立盛岡第一高等学校*	岩手県盛岡市	「M探」Plus Science and English	840名	120万円
2024	宮城県小牛田農林高等学校	宮城県遠田郡	“農林魂”で未来をひらく! ～自分らしく生きる力をつけるために～	375名	200万円
2024	宮城県仙台向山高等学校	宮城県仙台市	向陵Plearning～ともに創る未来への一歩	400名	200万円
2024	学校法人 常盤学園高等学校	宮城県仙台市	未来を拓くアントレプレナーシップ教育「スタートアップ」	474名	200万円
2024	宮城県宮城野高等学校*	宮城県仙台市	「未来構想ゼミナール」による自他の「しあわせ」のための 「未来デザイン力」育成プログラム	720名	200万円
2024	宮城県気仙沼高等学校*	宮城県気仙沼市	海を素材とするグローバルリテラシー育成 ～世界を舞台に豊かでたくましく活躍できる人材を目指して～	620名	200万円
2022	宮城県石巻西高等学校	宮城県東松島市	震災を乗り越え持続可能な未来社会を創造する 市民の育成プログラム	477名	190万円
2023	宮城県宮城第一高等学校*	宮城県仙台市	オール宮城で育てる 「ワクワクする」未来を拓くグローバル人材の育成	560名	200万円
2023	宮城県仙台二華高等学校*	宮城県仙台市	北上川/東北地方、メコン川/東南アジアをフィールドとした 世界の水問題解決のための取り組み	480名	200万円
2023	秋田県立新屋高等学校	秋田県秋田市	新屋高校SSC(SDGs×STEAM×Career)プロジェクト	160名	100万円
2022	山形県立山形東高等学校	山形県山形市	「山東探究塾」～地域・日本・世界で活躍するグローバルリーダー/ 困難な課題に立ち向かうライノベーターの育成をめざして～	720名	200万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2022	山形県立新庄北高等学校	山形県新庄市	LINKネクスト ～最上の地で最上の知恵～	300名	153万円
2022	山形県立酒田光陵高等学校	山形県酒田市	特色ある専門学科の実践及び学科を超えた協働による総合力と 世代間交流により限界集落離島飛鳥の課題解決を目指すプログラム	311名	200万円
2023	山形県立山形西高等学校	山形県山形市	嚶鳴クリエイティブ・ラボ ～グローバル人材の育成:友と学び 共に未来を創る～	398名	200万円
2024	山形県立小国高等学校	山形県西置賜郡	白い森未来探究学 ～地域に誇りと愛着をもち、 グローバルな視点で地域創生に挑む人材の育成～	50名	100万円
2022	学校法人 福島成蹊学園 福島成蹊高等学校	福島県福島市	地域に根差した問題を生徒の目線で考える探究活動 ～自分たちの手で採集した微小生物の有効利用を目指して～	50名	100万円
2023	福島県立白河旭高等学校	福島県白河市	白河旭校生が年間500の地域貢献を生み出すプログラム ～生徒が地域貢献を通して学びを深め、 社会人として将来どうありたいのかを考える～	320名	197万円
2023	福島県立石川高等学校	福島県石川郡	いしかわWORK & LIFE 探究プログラム	105名	200万円
2023	福島県立只見高等学校	福島県南会津郡	未来に繋げる「地域振興」プロジェクト	60名	83.6万円
2023	福島県立猪苗代高等学校	福島県耶麻郡	フィールドは猪苗代町! 実践から始まる 「やってみよう!おもしろそう!」をカタチにする探究プログラム	57名	100万円
2024	福島県立湖南高等学校	福島県郡山市	地域創生に関わる日本一の学校を目指して ～地域産業の継承と 年次縦断の探究活動をととした、社会に貢献できる人材の育成～	60名	100万円
2023	茨城県立土浦第三高等学校	茨城県土浦市	土浦市から宇宙まで探究のフィールドは無敵だ!	475名	100万円
2024	茨城県立江戸崎総合高等学校	茨城県稲敷市	【OO】×【福祉】で地域社会に貢献する生徒を育成し、変革の種をまく	250名	200万円
2022	栃木県立日光明峰高等学校	栃木県日光市	「日光学NEXT」 ～世界遺産と国立公園が私たちの学び場です～	53名	100万円
2024	栃木県立那須高等学校	栃木県那須郡	地域社会の未来を担う人材育成のための 「那須高校・魅力化プロジェクト」	78名	99.4万円
2024	栃木県立佐野東高等学校	栃木県佐野市	啓(Kei)～未来をひらく～	589名	200万円
2022	群馬県立大間々高等学校	群馬県みどり市	SDGsみらい探究 ～地域、社会の課題解決に向けて 主体的に取り組み、貢献できる生徒の育成～	351名	156.1万円
2023	群馬県立中央中等教育学校	群馬県高崎市	FEWC(Frontier Education for World Citizenship)プログラム	253名	200万円
2023	群馬県立太田女子高等学校	群馬県太田市	総合的な探究の時間「切り拓く未来」 ～自らの力で未来を切り拓き社会を牽引するリーダーの育成～	720名	200万円
2024	群馬県立伊勢崎高等学校	群馬県伊勢崎市	iTanQ ～伊高の探究が世界をつなぐ～	867名	200万円
2024	群馬県立高崎北高等学校	群馬県高崎市	“未来を拓く”あららぎ探究 ～問いを磨き、生徒も教師も学び続ける学校～	480名	200万円
2023	埼玉県立不動岡高等学校	埼玉県加須市	学際的な「科学的素養」を持った 「明日の世界を創造する品格あるリーダー」を育成する 未来探究プログラム ～生徒自らが主役となり実践する課題研究～	1,080名	200万円
2023	国立大学法人 筑波大学附属坂戸高等学校*	埼玉県坂戸市	高校生Social Change Student養成プログラム ～自分の学びをデザインしつづける力の育成を目指して～	160名	136.7万円
2024	埼玉県立秩父高等学校	埼玉県秩父市	「つなごう! ちちごう!」 ～学校と地域をつなぐ 秩父高校地域協働プログラム～	372名	200万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2022	東京都立竹早高等学校	東京都文京区	竹早の探究 ～ All Different, All Wonderful	520名	200万円
2022	新渡戸文化高等学校	東京都中野区	心が震えた想いをプロジェクトにするために ～クロスカリキュラムで生徒の心に火をともし「SDGs de 未来構想」の教材開発～	99名	100万円
2022	成蹊高等学校	東京都武蔵野市	新たな価値を創造する先駆的挑戦 ～成蹊スタートアッププロジェクト SEIKEI STARTUP Project～	340名	100万円
2022	東京都立南多摩中等教育学校	東京都八王子市	「合言葉はCross the border、自分の枠を越える探究学習」 ～多様な学びによる質の高い探究学習を通じて、生徒のキャリア形成を図る～	960名	197.9万円
2023	国立大学法人 筑波大学附属高等学校*	東京都文京区	筑波スタディ ～「伝統」と「連携」がひらく、社会へむかう探究の扉～	480名	200万円
2023	昭和女子大学附属 昭和高等学校	東京都世田谷区	文系・理系を問わない女子高校生のDS・プログラミングチャレンジと 理工系キャリア支援 ～データサイエンスを 中心に据えた探究活動プログラムの開発	200名	200万円
2023	東京都立三鷹中等教育学校	東京都三鷹市	三鷹中等教育学校の「探究(人生設計学)」	320名	200万円
2023	東京都立国分寺高等学校	東京都国分寺市	ぶんじの探究活動	640名	200万円
2023	東京都立八王子東高等学校*	東京都八王子市	『八王子東グローバル探究プロジェクト ～世界と地域で協働する力の育成～』	640名	200万円
2024	東京都立小金井北高等学校	東京都小金井市	未来を創るCOKITA	500名	200万円
2022	自修館中等教育学校	神奈川県伊勢原市	C-AIR(シー・エア)プログラム	192名	200万円
2023	神奈川県立柏陽高等学校	神奈川県横浜市	探究を深化させる2年間一貫した体系的な探究プログラム	636名	100万円
2024	神奈川県立横浜瀬谷高等学校	神奈川県横浜市	総合的な探究の時間「未来共創プロジェクト」を教育課程の中核とする カリキュラムマネジメント ～「持続可能な社会の創り手として、 これからの社会で活躍できる資質・能力」の育成を目指して～	951名	200万円
2022	新潟県立新津高等学校	新潟県新潟市	ClimbUpプラン ～「繋ぐ・拓く・創る」人になるために～	480名	200万円
2023	新潟県立柏崎高等学校	新潟県柏崎市	「エネルギー、環境、海」をテーマとした 海外高校との国際共同課題研究	400名	200万円
2022	富山県立高岡南高等学校	富山県高岡市	「SOUTH探究プロジェクト～Beyond Yourself」 …大学・地域と連携し、探究力の育成を通して、生徒が本気で学びたい という意欲を涵養し、大学での学びにつなげる	315名	200万円
2022	石川県立金沢錦丘高等学校	石川県金沢市	「なりたい自分」への挑戦 ～探究で育む自己肯定感とキャリアデザイン力	640名	200万円
2024	金沢大学人間社会学域 学校教育学類 附属高等学校	石川県金沢市	ミライシコウするグローバル人材の育成 ～地域と世界に開かれた 北陸コンソーシアムの探究マインド醸成を目指して～	300名	200万円
2024	石川県立輪島高等学校*	石川県輪島市	「WAJI活(輪島活性化プロジェクト)」特別編未来に向けて輪島を創造 しよう ～輪高生(りんこうせい)による街づくりプロジェクト(街プロ)～	254名	100万円
2023	福井県立勝山高等学校	福井県勝山市	中高接続による地域に根ざした持続可能な「勝山型新教育プログラム K-program」の構築 ～社会に出て輝き続ける人材の育成～	327名	200万円
2024	山梨県立北杜高等学校	山梨県北杜市	北の杜から世界へ ～高校生の力で地域活性化に挑む～	339名	200万円
2024	山梨県立甲府西高等学校*	山梨県甲府市	IBの手法を基礎とした「総合的な探究の時間」における課題研究論文の 作成とその成果の県下各高校への普及活動及び、課題論文発表大会 (n-Quest 西高探究の日)の全県開催	511名	200万円
2023	長野県立長野高等学校*	長野県長野市	Willから始まる探究の土壌づくり ～「翼プロジェクト」から広がる探究文化の醸成～	480名	200万円
2023	長野県上伊那農業高等学校*	長野県上伊那郡	チャレンジ『Inavation ～伊那谷で豊かなココロとカラダをイノベーション～』プロジェクト	39名	77万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2024	長野県辰野高等学校	長野県上伊那郡	「TATSUNOVision2030」プロジェクト「一人ひとりの活躍が作り出す 住み続けたいまち」と「地域に愛され必要とされる学校」を目指して!	200名	200万円
2024	長野県白馬高等学校	長野県北安曇郡	「ローカル・プライド」を持ち地域課題を ワクワクしながら解決できる人材を育成	142名	130.6万円
2024	長野県松本県ヶ丘高等学校*	長野県松本市	信州学からグローバル課題へ ―探究を実践し続ける縣陵人を 育てる Kenryo Researchers Program ―	970名	199.4万円
2024	岐阜県立恵那高等学校	岐阜県恵那市	知的なときめきから世界を変える ―社会に感動を与える探究イノベーター育成システムの構築―	400名	200万円
2024	岐阜県立加納高等学校	岐阜県岐阜市	岐阜から世界へ、世界から岐阜へ ～グローバル探究実践事業(GLI)を 通じて、広い視野をもつ生徒を育成する～	560名	200万円
2022	静岡県立富士高等学校	静岡県富士市	富士大型探究プログラム「心見考」(心でものごとを考え見極める)の 更なる深化を目指して ～県境をこえた教育連携の可能性～	853名	200万円
2023	静岡県立沼津東高等学校	静岡県沼津市	「揺籃」(ようらん)	292名	200万円
2023	静岡県立榛原高等学校	静岡県牧之原市	HAFプロジェクト(HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT) ～地域と世界を結ぶ有為な人材育成～	553名	200万円
2024	静岡県立駿河総合高等学校	静岡県静岡市	地域防減災コミュニティプロジェクト(LDCP) ～多様な価値観で、まちの未来創造を生徒・地域とともに～	233名	100万円
2024	静岡県立三島北高等学校	静岡県三島市	三島北型生徒エージェンシーの育成とメタ認知 ～WWLのレガシーの発展的継承～	574名	200万円
2022	愛知教育大学附属高等学校	愛知県刈谷市	愛教大SEHプロジェクト～人生を切り拓く探究力の育成を 目指した探究活動「附高ゼミ」の実施～	320名	200万円
2023	名古屋国立立菊里高等学校	愛知県名古屋	個性、自主自律を開化させるマイテーマ・マイプロジェクト追究型の探究 ～みんなのなぜが社会につながる みんなのなぜが未来につながる～	960名	124万円
2023	国立大学法人東海国立大学 機構名古屋大学教育学部 附属中・高等学校*	愛知県名古屋	文理融合教育STEAMプログラム ～知りたい・やりたい・成し遂げたい、そしてその思いを伝えたい～	360名	200万円
2024	愛知県立犬山総合高等学校	愛知県犬山市	探究学習を軸としたカリキュラムの実践による「チェンジメーカー」の育成 ～ビジネス・デジタルの力で地域の課題解決に挑む～	480名	200万円
2023	三重県立松阪商業高等学校	三重県松阪市	生徒よし○ 学校よし○ 地域・企業よし○ 「三重丸(さんじゅうまる)モデル」	440名	200万円
2023	三重県立鳥羽高等学校	三重県鳥羽市	とばっ子カンパニー ～起業体験プログラム・企業探究・地域課題解決型学習～	80名	100万円
2022	立命館宇治中学校・高等学校	京都府宇治市	日本×IBが作る世界水準の探究プログラムで令和の教育を創る ～探究で学校内外をつなぎ、ネットワークの力で生徒も教員も育つ～	1,250名	200万円
2022	京都府立向陽高等学校	京都府向日市	「Third Place, MUKO」プログラム ～竹の都・向日市を第三の場所に～	400名	100.2万円
2023	京都市立紫野高等学校	京都府京都市	グローバル・シティズンシップを起動する 総合的な探究の時間を軸としたカリキュラムの共同開発	560名	200万円
2023	京都府立鳥羽高等学校*	京都府京都市	「なぜ?」を問い、社会と関わる、社会に飛び出す グローバル・リーダーの育成	840名	171.5万円
2023	京都市立日吉ヶ丘高等学校*	京都府京都市	「世界をつなぐ越境者」育成プログラム ～生徒も先生も世界に踏み出そう～	480名	200万円
2023	京都府立井手やまぶき支援学校	京都府綴喜郡	「みがく むすぶ きりひらく」～小学部×中学部×高等部をつなげる むすびカリキュラム～」地域(井手町)の中で光り輝く生徒の心に エンジンをかけ、未来をきりひらくやまぶきプログラム	39名	100万円
2023	京都府立宮津天橋高等学校	京都府宮津市	Safari:探究の海へ漕ぎ出せ! 学舎を越えた協働的な学びへの挑戦 ～遠隔合同授業×ICT活用×総探学習 NEW TYPEを創り出せ!～	610名	200万円
2024	京都市立京都奏和高等学校	京都府京都市	Make smile ～心のエンジンをかけるための鍵となる「笑顔」の見つけ方～	240名	200万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時 対象者数	助成額
2024	京都市立京都堀川音楽高等学校	京都府京都市	「人とつながる音楽家」を目指して ～音楽科の特色を活かした探究的な学びの実践～	78名	100万円
2024	京都市立開建高等学校	京都府京都市	「やってみたいをやってみる」協創マインドの育成 —地域・社会と協創する探究活動実践—	480名	200万円
2024	京都市立美術工芸高等学校	京都府京都市	「未来を切り拓く青年」育成教育プログラム ～多様性にふれ、豊かな想像力と発想力で未来を創出～	90名	100万円
2024	京都市立西京高等学校*	京都府京都市	京都発! 未来の教室がある学校をめざして—グローバルリーダーシップ の育成をめざしフィールドワークを軸とした探究プログラムの構築—	560名	200万円
2022	大阪府立淀商業高等学校	大阪府大阪市	Road to EXPO 2025 “アントレプレナーチャレンジ” 地域を守れ! 「淀翔モール」防災イベントプロジェクト	508名	200万円
2022	大阪教育大学附属高等学校 池田校舎	大阪府池田市	未来の科学者を育成する「IKEFU KIZUNA PROGRAM」	320名	200万円
2022	大阪府立千里高等学校	大阪府吹田市	「国際科学高校」のグローバル・シチズンシップ教育プログラム ～(ひと×探究×国際性)ひととの出会いを通して将来ビジョンを描き、 世界に貢献する意欲と力を蓄える～	440名	200万円
2022	大阪府立布施工科高等学校	大阪府東大阪市	創る技術・造る技能と共に創造力を育てる 「価値創造型共育」プログラム	147名	100万円
2023	大阪府立吹田東高等学校	大阪府吹田市	吹田東高校「総合的な探究の時間」主体的に考え行動する 生徒の育成 第2学年プログラム「現代社会をみつめる」	312名	61.8万円
2023	大阪府立茨木高等学校*	大阪府茨木市	IBARAMA ～「自主自律の精神」に基づき、「高い志」と「枠を超える知性」を育む～	680名	200万円
2023	大阪府立岸和田高等学校*	大阪府岸和田市	知の三現改革プログラム	640名	200万円
2024	大阪府立桜和高等学校	大阪府大阪市	教育探究 学びのSTEAM化プロジェクト ～桜和から始まる、好きから始める、私たちの未来～	240名	200万円
2024	大阪府立箕面高等学校	大阪府箕面市	VUCA時代にグローバルに活躍する! 箕面高校発、全員発掘型リーダーシップ教育。	720名	145万円
2024	大阪府立刀根山高等学校	大阪府豊中市	『トネ究』～深める探究・進める探究・広げる探究～	1,080名	150万円
2024	大阪府立 水都国際中学校・高等学校*	大阪府大阪市	世界も地域も私も変わる “Suito Action Project for SDGs”	720名	200万円
2022	神戸市立葺合高等学校	兵庫県神戸市	Be a Glocal Citizen! 探究から実践へ ～地域・世界に貢献する人材の育成を目指す～	800名	200万円
2022	兵庫県立長田商業高等学校	兵庫県神戸市	高校生が株式会社「NAGAZON」を設立し、会社経営を行う!	74名	100万円
2022	親和女子高等学校	兵庫県神戸市	未来学プロジェクト ～「私のミライ」と「未来のワタシ」の交差点～	370名	200万円
2023	兵庫県立神戸甲北高等学校	兵庫県神戸市	生涯探Cue時代を生きる世代の 社会創出力育成キャリア教育プログラム	600名	200万円
2023	兵庫県立兵庫高等学校	兵庫県神戸市	先生が変われば教育が変わる —STEAM教育(ワクワク)と真正の学び(実社会との接点)の往還—	640名	200万円
2023	兵庫県立千種高等学校	兵庫県宍粟市	思創探究プロジェクト—地域の子が地域を育てる— 宍粟市を思い、宍粟市の未来を創造する人材の育成	100名	100万円
2024	兵庫県立須磨友が丘高等学校	兵庫県神戸市	地域のSafety Coreとしての学びを通して 自己のキャリアを育成するプログラム	720名	200万円
2024	兵庫県立長田高等学校*	兵庫県神戸市	一芸一才を活かして安全な未来都市づくりを担う アーバンクリエイター育成方策の開発	640名	200万円
2024	兵庫県立御影高等学校*	兵庫県神戸市	伸ばせ! 「みかげ力」 —外部連携を活かした生涯学び続ける生徒を育てる探究活動	947名	200万円
2022	奈良県立畷傍高等学校	奈良県橿原市	生徒の探究心を高めるプログラム ～「本物」との出会いの創出とSTEAM教育を通して～	741名	150万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時 対象者数	助成額
2023	奈良女子大学附属 中等教育学校	奈良県奈良市	異なる4者との“共創”を組織することにより、未来社会に生きる 「ものづくりの心」を喚起する教育プログラムの構築とその普及	160名	99.5万円
2023	西大和学園高等学校	奈良県北葛城郡	Action Innovation Program(AIP)	150名	190万円
2022	和歌山信愛中学校高等学校	和歌山県和歌山市	和歌山発! 地域の未来を拓く鍵となる「Key Girl」育成プログラム	640名	146.4万円
2024	鳥取県立米子西高等学校	鳥取県米子市	「みらいチャレンジ」で未来をチェンジ! ～社会とつながる探究活動で学びのイノベーション～	560名	200万円
2022	鳥根県立松江東高等学校	鳥根県松江市	地域共創人育成Project アドバンスト ～子どもも育つ 大人も育つ 地域共創の拠点づくり～	364名	200万円
2023	鳥根県立隠岐島前高等学校	鳥根県隠岐郡	誰もが一步踏み出すための踏み込み共創プログラム ～「踏み込み」と「振り返り」による「愛されるグローバル人材」の育成～	105名	200万円
2023	鳥根県立矢上高等学校	鳥根県邑智郡	矢高おおなん協育プログラム ～生徒が学び 地域が学び 教員が学ぶ共同体の創造～	120名	190.8万円
2024	鳥根県立益田高等学校	鳥根県益田市	益田圏域での理数教育を発展させるための 小学校・中学校・高等学校連携プログラム	1,200名	200万円
2024	鳥根県立隠岐高等学校	鳥根県隠岐郡	小さな島だからこそできる、最先端が混ざり合うキャリア探究 — 隠岐ジオパーク研究 × 実践型アントレプレナーシップ 教育 × 越境的学び —	135名	200万円
2022	岡山県立倉敷鷺羽高等学校	岡山県倉敷市	「You Make 鷺羽!」プロジェクト	436名	200万円
2024	岡山県立岡山芳泉高等学校	岡山県岡山市	HOSENみらい「探究」プロジェクト	949名	200万円
2024	岡山県立岡山操山高等学校	岡山県岡山市	未来の岡山と世界のWell-beingの実現に貢献する グローバル・リーダーの育成	560名	200万円
2022	広島県立広島井口高等学校	広島県広島市	ACT-i「デザイン思考」で世界を創造する	600名	200万円
2022	広島県立呉三津田高等学校	広島県呉市	“探究とは何か”を問える探究者 —社会に根付くラーニング・プログラムを目指して	186名	100万円
2022	広島県立廿日市高等学校	広島県廿日市市	総合的な探究の時間『桜尾ゼミ』から『SACURA』へ ～「楽しい」を求めて、進化・深化するカリキュラム～	280名	100万円
2023	広島県立日彰館高等学校	広島県三次市	「田舎主義」～生徒の資質・能力を育成するための地域と協働した 教育カリキュラムの実践～	207名	200万円
2023	広島県立佐伯高等学校	広島県廿日市市	『オール佐伯』で学校・地域の危機を乗り越える ～総合的な探究の時間(SAeki QUEST)を軸にした「つながり」の創出～	85名	100万円
2023	独立行政法人国立高等専門 学校機構 呉工業高等専門学校*	広島県呉市	「0→0.1」にする主体性教育の学内外への展開	516名	200万円
2024	広島県立広島皆実高等学校	広島県広島市	「広島皆実Zest探究コンソーシアム」を通じた学校を越えた 新たな学びの創出～学校(Gakko)から楽広(Gakko)へ～	640名	200万円
2024	広島県立高陽高等学校	広島県広島市	MAPLE (Making active people link education) —地域社会とBridgingし生徒をSocializeする—	475名	200万円
2024	広島市立舟入高等学校*	広島県広島市	広島、日本、世界へ届け! 舟入の「問い」! ～「問い」から始まり、「問い」で終わる舟入の「問い」立て探究～	320名	100万円
2023	山口県立山口高等学校	山口県山口市	多角的・物語的思考を育む「チーム探究」の開発	260名	100万円
2023	山口県立大津緑洋高等学校	山口県長門市	じぶんたちの力でまちの経済を循環させる ～起業家精神を身につけるプロジェクト型学習～	30名	100万円
2022	徳島県立城西高等学校神山校	徳島県西郡	循環型農業の実践を通じた探究型学習プログラム	90名	100万円
2023	徳島県立阿波高等学校	徳島県阿波市	A-waveがつなぐ地域と未来	465名	100万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2023	徳島県立池田高等学校*	徳島県三好市	対話による阿波池田シビックプライド探究プロジェクト	460名	200万円
2022	香川県立高松高等学校	香川県高松市	杉原千畝・幸子氏から広がる人道の輪 ～高校生同士の交流が世界へと繋がる～	700名	200万円
2022	香川県立津田高等学校	香川県さぬき市	私たちの町は私たちが創る ～産官学連携 住む町創造プロジェクト～	182名	200万円
2023	香川県立小豆島中央高等学校	香川県小豆郡	総合的な探究の時間「權風」	420名	200万円
2022	愛媛県立松山東高等学校	愛媛県松山市	東高 がんばっていきましょいーグローバルな学びの継承ー	720名	200万円
2022	愛媛県立川之江高等学校	愛媛県四国中央市	“Catch The Dream” ～夢へとつながる探究的な学び～	353名	200万円
2023	愛媛県立今治東中等教育学校	愛媛県今治市	令和の伊予商人 今東地域資源(自然・歴史・伝統文化) 事業化プログラム	200名	99.8万円
2024	高知県立安芸中学校・高等学校	高知県安芸市	次代の弥太郎育成プロジェクト ～地域課題と向き合い グローバルな視野を持ち地域で活躍する人材の育成を目指す～	227名	200万円
2024	高知県立高知小津高等学校	高知県高知市	「イノベーション人材」育成プログラム ～地方から未来を創生～	800名	200万円
2024	高知県立山田高等学校*	高知県香美市	よってたかって「山高」探究プログラム	300名	200万円
2022	福岡県立ひびき高等学校	福岡県北九州市	『考エル 自分をカエル 未来をカエル』(カエルプロジェクト) ～探究的な学びを通したグローバル人材の育成～	700名	200万円
2022	佐賀県立佐賀商業高等学校	佐賀県佐賀市	本物を知り、伝統を守り、社会に貢献する商業人を育てる ～生徒と企業、地域人材をつなぎ、学びを深める体験型プロジェクト～	480名	200万円
2023	長崎県立壱岐商業高等学校	長崎県壱岐市	未来の起業家育成プログラム	88名	100万円
2023	長崎県立島原高等学校	長崎県島原市	文理探究科「課題研究」×普通科「地域探究」による 世界と地域の未来を創造する人材育成プログラム ～『島原高校ワクワク成長サイクル』の実現を目指して～	393名	200万円
2023	長崎県立佐世保南高等学校	長崎県佐世保市	サザンタイム ～「地域から世界へ 世界から地域へ」 循環型グローバル探究プログラム～	680名	200万円
2023	長崎県立長崎東中学校・ 高等学校*	長崎県長崎市	「ともによき世を創る」 ～世界の平和と共生を目指し、協働・共創でイノベーションを～	840名	200万円
2023	長崎県立諫早高等学校*	長崎県諫早市	「自立し未来を創造する人材育成」	828名	150万円
2024	長崎県立猶興館高等学校	長崎県平戸市	探究が平戸・日本の未来へつなぐ ～猶興精神(自立・自発)を心のエンジンに～	256名	200万円
2024	長崎県立小浜高等学校	長崎県雲仙市	島原半島の魅力再発見プロジェクト「本校での略称:しみプロ」 ～「小浜さん」定期発行へ～	37名	90万円
2024	長崎県立口加高等学校	長崎県南島原市	対面からつながるリモート探究 ～最南端から最先端～	160名	200万円
2024	熊本市立千原台高等学校	熊本県熊本市	フロンティアプロジェクト ～ソーシャルビジネスコンテストを 活用した未来のトップランナーの育成～	440名	200万円
2024	熊本県立小国高等学校	熊本県阿蘇郡	小国の未来をつくる! OGUNI-GOプロジェクト ～ふるさと納税返礼品を活用した地域貢献型カタログギフト～	37名	100万円
2024	熊本県立熊本高等学校*	熊本県熊本市	共創とイノベーションの融合:STEAM教育エコシステム ～私の探究から、私達の探究へ～	1,200名	200万円
2024	大分県立安心院高等学校	大分県宇佐市	小中高一貫教育を活かした安心院高校グローバルマインド育成プログラム	185名	200万円
2024	大分県立 久住高原農業高等学校	大分県竹田市	次代の農業を担う“進”農業者育成プログラム ～創る力、繋がる力、拓く力の習得・向上を目指した探究学習の推進～	87名	100万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2022	宮崎県立宮崎南高等学校	宮崎県宮崎市	産学官連携による都市型コミュニティ・スクールを目指して ～地域の次世代リーダーとして、地域に根差し、貢献できる人材の 育成に資する産学官連携による人の地域循環教育～	1,061名	199.8万円
2023	宮崎県立宮崎大宮高等学校	宮崎県宮崎市	「大地に絵をかく」イノベーターを育成する教育プログラムの研究開発 ～多様な人びと協創するグローバル・イノベーター～	1,080名	200万円
2022	鹿児島県立屋久島高等学校	鹿児島県熊毛郡	探究活動を主体とした「屋久高(YAKKO)プロジェクト」 ～地域愛を育み、自己肯定感を高める取組～	150名	168万円
2022	鹿児島県立大島高等学校	鹿児島県奄美市	奄美から日本へ、奄美から世界へ～奄美の高校生による課題研究発表会～	400名	200万円
2022	鹿児島県立福山高等学校	鹿児島県霧島市	現代版郷中教育による未来の人材育成プロジェクト ～地域で活躍できるクリエイター・イノベーターの育成をめざして～	200名	200万円
2023	鹿児島県立徳之島高等学校	鹿児島県大島郡	徳之島「共育」プロジェクト	245名	200万円
2023	鹿児島県立奄美高等学校	鹿児島県奄美市	「結」島の未来は、わたしたちがつなぐ。	378名	200万円
2023	鹿児島県立曾於高等学校	鹿児島県曾於市	中高大・広域・地域の連携による地域社会を先導する人材育成プロジェクト 「曾於みらい塾」～曾於地区における創造的人材の育成を目指して～	130名	200万円
2023	沖縄県立与勝高等学校	沖縄県うるま市	よりよい社会を実現しようとする態度を育成する「よかたんプロジェクト」	142名	95万円
2024	沖縄県立開邦高等学校	沖縄県島尻郡	開邦雄飛 ー自ら育ち、自走する集団の育成プログラムー	480名	200万円

*リエントリー…グッドプラクティスの普及・横展開を目的に、3年間の助成終了となったプログラムの一部をリエントリー採択として新たな助成を行うもの。 カテゴリー1助成額計3億472.5万円

カテゴリ 2

組織名五十音順

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2023	一般社団法人i.club*	東京都渋谷区	innovationGO ー全国各地とつながり、未来をつくる、オンライン探究プラットフォームー	300名	850万円
2023	国立大学法人愛知教育大学	愛知県刈谷市	フェイクニュース時代のメディア情報リテラシーを育成する 産・学・高校生協同プログラム	240名	277万円
2022	一般社団法人アンカー	東京都中央区	大学生による中高生のためのSDGs/サステナビリティワード (Sustainability Award for Students by Students:#SASS2022)	1,000名	729.2万円
2023	一般社団法人ELAB*	東京都港区	「未来を描くプログラム」 ー未来を創り出す力を育むアートによる学びのプログラムー	1,200名	650万円
2022	一般社団法人ウィルドア	神奈川県川崎市	課外にある学びの資源を“選択・活用する力”を育み、 実行するための“つながり”を届けるプログラム「willdoor」	1,200名	758万円
2023	NPO法人ETIC.*	東京都渋谷区	ワンダリングチャレンジ ～3人1組で挑み、競う、ゲーミフィケーション型探究学習	3,000名	550万円
2022	株式会社a.school	東京都文京区	プロや大学生、仲間と共に、好きを徹底的に探究! 『01ゼミ』	200名	770万円
2022	認定特定非営利 活動法人カタリバ	東京都杉並区	教育リソースの共有と連携を通した個別最適化によって、小規模校の 教育価値を最大化する「COLLABOハイスクール・ネットワーク構想」	250名	632.7万円
2024	一般社団法人 Girls Unlimited Program	東京都板橋区	Girls Unlimited Program: 体験格差を解消するエンパワメントプログラム	300名	370万円
2023	認定特定非営利活動法人 キッズドア	東京都中央区	大学で学ぶIT&デザインプログラム(IFUTO)	60名	868.8万円
2022	株式会社 教育と探求社	東京都千代田区	「問い」で授業と出会い直す Question X	1,000名	843万円
2024	株式会社教育と探求社	東京都千代田区	“私の願い”を呼び起こし、探究を駆動させる「CORE」	800名	900万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2024	一般社団法人KURUMIRAI	熊本県菊池郡	『高校生が作るギフト』	900名	500万円
2024	KCJ GROUP 株式会社	東京都中央区	「Future Life Design Lab」キッズニアとアントレプレナーシップ教育の専門家が創るキャリア教育プログラム	100名	888万円
2022	一般社団法人 高校生みらいラボ	神奈川県足柄下郡	大自然溢れる空間で、人と繋がり、自らの問いにひたすら向き合い暮らす、次世代型探究プログラム“Co-living Camp”	300名	485万円
2022	株式会社コエルワ	北海道札幌市	地域の新たなイベントづくりに向けた伴走型教育プログラム ～コロナに打ち勝つ「理想のイベント」をつくらう!～	100名	875万円
2023	一般社団法人 国際STEM学習協会	神奈川県鎌倉市	FAB QUEST (ファブクエスト) 「つくる」ことを通じて私、私たち、社会とつながるプログラム	100名	837.7万円
2024	一般社団法人52Hz	京都府京都市	中高生が自分らしくグローバルに輝くために 探究活動を加速させる伴走プログラム【52Hz Accelerator】	500名	566.6万円
2022	一般社団法人KOTOWARI	福島県大沼郡	KOTOWARI	200名	501.9万円
2023	株式会社しくみデザイン	福岡県福岡市	プログラミングでクリエイトする探究機会創出+強み発見プログラム 未来をクリエイトする人材を育成するプログラム『みらくり』	240名	690.8万円
2023	特定非営利活動法人 しずおか共育ネット	静岡県静岡市	SERENDIPITY—SHIZUOKA TANKYU COLLECTION	1,000名	400万円
2023	一般社団法人次世代教育・産官学民連携機構	東京都中央区	公立高校の「Collaborative Impact on Education」	640名	192万円
2022	特定非営利活動法人 じぶん未来クラブ	東京都港区	やってみよう、が未来をつくる 自分探求「Yes, And!」プロジェクト	60名	835万円
2023	青楓館	兵庫県明石市	高校生の「社会で生きる力」を育む自治体・企業連携型Project Based Learning	100名	818.9万円
2024	特定非営利活動法人 育て上げネット*	東京都立川市	若者の孤立無業化予防のためのキャリア教育プログラム Life Connection	4,500名	424.5万円
2024	特定非営利活動法人 Touch the Future	東京都調布市	(1)Touch the Future高校生向け医療体験学習 (2)DoctorX! ハイブリッド・ミーティング	230名	606万円
2023	株式会社トゥワイス・リサーチ・インスティテュート	東京都中央区	高校生が、人工知能・ロボット工学をはじめとする次世代技術による 創造的な未来を自分の言葉で語れるようになる体験型探究プログラム	1,000名	1,000万円
2024	株式会社トモノカイ	東京都渋谷区	自由すぎる研究EXPOと連動した、 国際映画祭接続型、映像ドキュメンタリー制作プログラム	500名	500万円
2023	一般社団法人 日本金融教育支援機構	東京都中央区	FESコンテストによるワークショッププログラム	150名	360万円
2023	NPO法人 日本ファンドレイジング協会*	東京都港区	寄付とウェルビーイングを体感する日本初の 寄付版SDGカードゲーム「from Me」プログラム	8,000名	500万円
2023	一般社団法人パラメンタリー ディベート人財育成協会	大阪府堺市	人工知能を用いた即興型ディベート能力開発プログラム ～他者への想いを馳せよう～	300名	510万円
2024	一般社団法人病院マーケティング サミットJAPAN	東京都新宿区	ワカモノ未来共創部 ～自分たちのアイデアで病院や暮らしの現場を変えてみよう!～	100名	500万円
2022	一般社団法人フリンジシアター アソシエーション	京都府京都市	「演劇で学ぼう」 表現する⇄受け止める循環をつくる、アートプログラム	550名	654.4万円
2022	株式会社ミエタ	東京都港区	学校間で切磋琢磨しながら『社会実装』に挑戦する長期ゼミナール	240名	900万円
2024	一般社団法人未来キッズ コンテンツ総合研究所*	東京都港区	全国高校AIアスリート選手権大会 シンギュラリティ・パトルクエスト(特別支援学校強化プログラム)	50名	400万円
2024	NPO法人Leapfor	東京都港区	越境型部活動“体感”&“創設”支援プログラム	200名	1,000万円
2024	特定非営利活動法人 Waffle	東京都渋谷区	Waffle Campホームタウン ～日本全国で女子中高生の理系的経験の格差を解消する～	200名	881.9万円

※リエントリー…グッドプラクティスの普及・横展開を目的に、3年間の助成終了となったプログラムの一部をリエントリー採択として新たな助成を行うもの。 カテゴリー2助成額計2億4,026.4万円

カテゴリー 3

組織名五十音順

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2024	学校法人 麻布獣医学園麻布大学	神奈川県相模原市	麻布「出る杭を引き伸ばす」プログラム	150名	500万円
2023	一般社団法人 inochi未来プロジェクト*	大阪府大阪市	inochi Gakusei Innovators' Program	280名	700万円
2023	国立大学法人 愛媛大学	愛媛県松山市	「学チャレ合同会社」を基盤とする地域活用 アントレプレナーシップ育成プログラム	50名	1,000万円
2023	国立大学法人 大阪大学*	大阪府吹田市	大阪大学の教育研究力を活かしたSEEDSプログラム ～未来を導く傑出した人材発掘と早期育成～	160名	1,000万円
2023	加速キッチン合同会社*	宮城県仙台市	次世代放射線探究活動 ～検出器を製作し・放射線を測定する～	200名	800万円
2022	国立大学法人 金沢大学	石川県金沢市	未来成長分野開拓型再創業 (Re-Startup)アントレプレナー教育プログラム	65名	794万円
2022	国立大学法人 東海国立大学 機構 岐阜大学 高等研究院	岐阜県岐阜市	岐阜大学 アントレプレナー育成プログラム～野心よ集え～	100名	1,600万円
2024	特定非営利活動法人 教育の環	東京都目黒区	世界への挑戦を継承し、若者たちの挑戦の連鎖を生む グローバルイノベーター育成プログラム「Global Innovators Nexus」 (グローバル イノベーターズ ネット)	100名	300万円
2022	国立大学法人 京都大学	京都府京都市	京都大学異能プログラム	120名	1,800万円
2023	公益財団法人 国際文化会館	東京都港区	ルールを変える 「若手政策起業家」育成プログラム	160名	1,000万円
2023	国立大学法人 筑波大学*	茨城県つくば市	未来を切り拓くフロントランナー育成プログラム・筑波大学GFEST (Global Front-runner in Engineering, Science & Technology)	40名	1,000万円
2024	国立大学法人 東京工業大学	東京都目黒区	女子STEAM生徒の未来チャレンジ 「みらいの扉キャンプ・みらいの扉ビジット」	2,550名	1,500万円
2022	国立大学法人 東京大学 生産技術研究所	東京都目黒区	インクルーシブな未来社会をデザインする 東京大学STEAM型創造性教育プログラム	100名	1,800万円
2023	国立大学法人 東京農工大学	東京都府中市	GXを推進するグリーン・スキルを備えたGXリーダーを養成する 「GXサイエンスキャンプ(Green Transformation Science Camp)」	144名	1,200万円
2022	国立大学法人 東北大学	宮城県仙台市	～未来を大胆に切り拓く三綱領～未来創造・価値工房・異能発掘 アントレ人材育成プログラム	300名	2,000万円
2024	東北大学*	宮城県仙台市	東北から世界へ みらい型「科学者の卵養成講座」 ～集え、異能な高校生よ。創れ、未来の理想社会を～	100名	985万円
2023	株式会社トゥワイス・ リサーチ・インスティテュート	東京都中央区	国内外の教育イベントに出場して優秀な成績を修めた高校生がチームを 結成し、1年間で3分野の課題解決に取り組む高校選抜探究リーグ	50名	600万円
2023	国立大学法人 徳島大学	徳島県徳島市	徳島大学 次世代産業人材創出プログラム ～起業という世界を知り、体験し、実践する～	150名	1,260万円
2024	独立行政法人国立高等 専門学校機構 長岡工業高等専門学校	新潟県長岡市	地域DXエバンジェリスト創出プログラム ～高専生がデザインする地域未来～	50名	500万円
2024	一般社団法人 日本スローフード協会	東京都中央区	次代の食料生産を担う“ガストロノーム”発掘・育成	35名	400万円
2023	三重大学	三重県津市	メタバース有造館 ～文理融合イノベーション創出プログラム～	80名	1,000万円
2022	学校法人早稲田大学	東京都新宿区	W-EDGEユース・イノベーター (WEYI) 育成プログラム	100名	1,800万円

※リエントリー…グッドプラクティスの普及・横展開を目的に、3年間の助成終了となったプログラムの一部をリエントリー採択として新たな助成を行うもの。 カテゴリー3助成額計2億3,539万円

カテゴリー 4

組織名五十音順

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2024	愛知県公立大学法人 愛知県立大学*	愛知県長久手市	愛県大教養教育新カリキュラム:「県大世界あいち学」 —地域・高大連携強化へ—	760名	368万円
2022	一般社団法人アートをコアとした コミュニケーションデザイン大学 コンソーシアム	京都府京都市	グローバル・エシカル教育のための、創作アートを応用した アクティブ・ラーニング・プログラムの開発と実践	120名	120万円
2023	上田女子短期大学	長野県上田市	「デザインの学び」の開発:今日の大学教育の中心をなす「知る」学びと 芸術やデザイン分野で培われた「行う(表現する)」学びを組み合わせる営み	300名	280万円
2023	大分県立芸術文化短期大学	大分県大分市	デジタル教材づくり参加型教養教育プログラム ～高校生向け「情報」用アニメ教材シリーズの制作～	30名	150.5万円
2023	大阪公立大学 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター	大阪府堺市	転換期の社会に求められる力を培うための産学連携型教育 プログラム:QBIC ~Question Based Innovation and Career education program for societal transition~	80名	235万円
2024	大阪大学*	大阪府吹田市	「対話」で開く「学問への扉」 ～少人数セミナー型初年次導入科目の挑戦～	3,400名	350万円
2022	国立大学法人 岡山大学	岡山県岡山市	地域の未来デザイン～社会共創と分野横断型学習で 現代社会課題に挑む「恩送り」の探究プログラム～	150名	136万円
2022	国立大学法人 岡山大学大学院 教育学研究科 国吉康雄記念・ 美術教育研究と地域創生講座	岡山県岡山市	テーブル・ロール・プレイング・ゲームを通して学ぶ物語の作法 ～アナログゲームシステムで養う 「思考する力・対話する力・他者と協働する力」	240名	199.6万円
2023	国立大学法人 金沢大学	石川県金沢市	未来デザインプラクティス ～自分と未来は変えられる!～	60名	190万円
2023	関西大学	大阪府吹田市	「ごちゃまぜ協働」によるソーシャル・アントレプレナーシップ 育成プログラム(SEJumCoプログラム)	120名	226.3万円
2023	国立大学法人 九州工業大学	福岡県北九州市	九州工業大学アントレプレナーシップ教育プログラム ～未来思考キャンパスで、自分らしさを探求し、 社会に価値を創出するアントレプレナーを目指そう!～	60名	120万円
2022	京都光華女子大学	京都府京都市	実践知を育てる — 今とこれからの豊かに、確かに生きる人間力の形成プログラム —	497名	394.2万円
2024	公立大学法人熊本県立大学	熊本県熊本市	もやいすと育成システムによる地域性と国際性を併せ持つ 地域づくりのキーパーソン「もやいすと」の養成	535名	250万円
2024	一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団	熊本県熊本市	多文化共創ボランティア・ラーニング ～グローバル・シチズンシップを持てる人材の育成支援～	170名	300万円
2023	神戸大学大学院人間発達環境学 研究科ヒューマン・ コミュニティ創成研究センター	兵庫県神戸市	異質な当事者性の交差を生むグローバル・ボランティアツアー・ プログラムの開発 ～持続可能な社会づくりに向けてのユースの エンパワメントを目指して～	70名	248万円
2024	公立大学法人 埼玉県立大学	埼玉県越谷市	多層的・分野横断的な批判的対話実践プログラム —教員・SA・学生の協働で知を織り上げる—	300名	135.9万円
2023	埼玉大学	埼玉県さいたま市	HiSEP-Mirai (ハイグレード理数教育プログラム—問題発見・解決力育成シリーズ)	180名	353.8万円
2024	滋賀大学	滋賀県彦根市	「未来創生リベラルアーツプログラム」～学生とともにデザインする 「リベラルアーツ×データサイエンス」教育～	790名	400万円
2024	順天堂大学	東京都文京区	レッツMEdit Q!「医学をみんなでゲームする」—シリアスゲーム開発で 社会と医療を変える21世紀型STEAM教育カリキュラム—	200名	150万円
2024	昭和大学 ストレスマネジメント研究所	東京都品川区	課題解決できる医師を育成するための 教養教育プログラム:新しい「行動医学」教育	240名	240万円
2023	東京家政大学	東京都板橋区	基礎教養科目から形成する人と信頼関係を築く 多角的コミュニケーション力	160名	160万円
2024	東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院	東京都目黒区	「志」を育む東京工業大学(東京科学大学)リベラルアーツ教育 プログラムの発展 —専門性をもった文理共創人材の育成を目指して—	2,715名	400万円
2024	東北大学*	宮城県仙台市	挑戦カレッジと学問論でつむぐ 分野横断型リベラルアーツプログラム	2,400名	358.9万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2024	東北大学 研究推進・支援機構 知の創出センター	宮城県仙台市	東北大学知のフォーラム「未来社会デザイン塾」 —一人が集い・共に学び・創造する—	200名	150万円
2024	豊橋技術科学大学総合教育院	愛知県豊橋市	異分野対話型リベラルアーツ教育の構築 ～知的創造の場の創出と体験～	440名	150万円
2024	名古屋経済大学	愛知県犬山市	中部地方内陸地域の地域創生を担う人材を育成する 実践的教養教育プログラム ～学部を横断する課題志向のサブスペシャリティ!～	500名	300万円
2023	国立大学法人 奈良国立大学機構	奈良県奈良市	喚起・融合・交歓により「総合知を構築する力」を育み、磨き合う 学修システム『奈良カレッジズ学問祭』を核とする3つの取組—	1,460名	760万円
2022	公立大学法人新潟県立大学	新潟県新潟市	調べ、学び、考え、新潟を救え! ～データに基づく公共政策と自治の実践をオープン・コース・ウェアに～	150名	150万円
2024	国立大学法人 新潟大学*	新潟県新潟市	新潟大学ダブルホーム—地域と創る新たなふるさと—	360名	150万円
2022	法政大学	東京都千代田区	STARTプログラム (SDGs Target Active learning Revolutionary Trial Program)	200名	165万円
2024	北海道科学大学	北海道札幌市	北海道科学大学・課題解決力育成プログラム —デジタル社会の総合知と異分野協働に基づく地域課題への挑戦—	1,984名	165万円
2024	武蔵野大学教育学部	東京都江東区	幼児教育プロジェクト:学生・教員・子ども・地域が協働して 幼児教育・保育の視点から社会を変革する教育プログラム	50名	85万円
2023	明治大学経営学部	東京都千代田区	クロスボーダー課題解決力を発揮できる次世代 グローバルリーダーの育成 —国際トリプルハイブリッド授業によるSDGs探究学習—	120名	280万円
2023	公立大学法人 山口県立大学	山口県山口市	全学科混成チームで地域課題解決のアイデアを創出する 「やまぐち未来デザインプロジェクト」	323名	238.2万円
2024	国立大学法人 山梨大学	山梨県甲府市	実践! 風林火山:VUCA時代に生きる学生のための 教養教育「シン・ナンダイ」	850名	47.4万円
2022	早稲田大学 スポーツ科学学術院	東京都新宿区	専門領域と融合したアカデミックスキルズ教育 —「共有し、考え、伝え、発信する」	800名	292.8万円

※リエントリー…グッドプラクティスの普及・横展開を目的に、3年間の助成終了となったプログラムの一部をリエントリー採択として新たな助成を行うもの。 カテゴリー4助成額計 8699.6万円

カテゴリー 5

組織名五十音順

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2022	一般社団法人ELAB	東京都港区	主体的・協働的学習を推進するための 「創造的コミュニケーション力」開発講座	150名	740万円
2023	一般社団法人ウィルドア	神奈川県川崎市	「わたしから始まる学び」を課外の資源に繋げ、促進する 学びの「ナビゲーター」研修プログラム	35名	980万円
2024	認定特定非営利活動法人 カタリバ	東京都杉並区	高校生に意欲と創造性を届けるための「伴走力向上」と 「校内推進体制づくり」を目指した伴走型研修	30名	680万円
2024	株式会社3in	山口県長門市	先生による探究学習・起業家教育体験プログラム	100名	850万円
2022	国立大学法人島根大学教育学部	島根県松江市	地域教育魅力化コーディネート人材育成プログラム	60名	999.3万円
2023	学校法人昭和女子大学 現代教育研究所	東京都世田谷区	先生による、先生のための、先回り研修プログラム(略称:先3) ～4つのチカラでミライを自作自走する先生コミュニティの創出～	100名	929.5万円
2024	一般社団法人 ティーチャーズ・イニシアティブ*	東京都千代田区	「主体的・協働的な学び」を実践できる教員養成のための 指導主事研修プログラム	20名	486.5万円
2024	国立大学法人 東京学芸大学*	東京都小金井市	探究的な学びの実践コミュニティ拡大支援プログラムの開発	1,200名	1,000万円
2023	名古屋大学 大学院教育発達科学研究科	愛知県名古屋市	探究的な学びを通じて個性的で自立的な生徒を育成する 教師の洞察力と構想力の育成	200名	917万円
2024	一般社団法人 Bridge for Fukushima	福島県福島市	「ケースメソッド」を用いた主体的・協働的な学習を 実践できる教員・指導者育成プログラム	200名	665.9万円
2024	株式会社ミエタ	東京都港区	実社会に存在する問いの解決に挑戦する『社会行動』型教科学習の 授業計画を担う探究コーディネーター育成およびコミュニティ創出	90名	820万円

※リエントリー…グッドプラクティスの普及・横展開を目的に、3年間の助成終了となったプログラムの一部をリエントリー採択として新たな助成を行うもの。 カテゴリー5助成額計 9068.2万円

貸借対照表 2024年3月31日現在

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	638,910	755,572	▲116,662
未収金、前払金、前払費用	56,263	65,805	▲9,542
流動資産合計	695,173	821,377	▲126,204
2. 固定資産			
その他固定資産	12,037	13,356	▲1,318
固定資産合計	12,037	13,356	▲1,318
資産合計	707,210	834,732	▲127,522
II 負債の部			
流動負債(未払金、未払費用等)	23,465	47,243	▲23,779
負債合計	23,465	47,243	▲23,779
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産	683,745	787,489	▲103,744
正味財産合計	683,745	787,489	▲103,744
負債及び正味財産合計	707,210	834,732	▲127,522

正味財産増減計算書 2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取寄付金	1,010,000	1,010,000	0
その他経常収益	419	139	280
経常収益計	1,010,419	1,010,139	280
(2) 経常費用			
事業費	1,089,489	960,031	129,458
支払助成金	892,047	744,403	147,644
人件費	23,344	24,536	▲1,192
その他事業費	174,098	191,092	▲16,994
管理費	24,673	25,090	▲417
人件費	11,364	11,481	▲117
その他管理費	13,308	13,609	▲300
経常費用計	1,114,162	985,121	129,041
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用計	0	598	▲598
当期一般正味財産増減額	▲103,744	24,419	▲128,163
一般正味財産期首残高	787,489	763,070	24,419
一般正味財産期末残高	683,745	787,489	▲103,744
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	683,745	787,489	▲103,744

◆ 評議員・役員

評議員

- 島村 琢哉**
(AGC株式会社 取締役会長)
- 杉山 博孝**
(三菱地所株式会社 特別顧問)
- 清家 篤**
(日本赤十字社 社長)
- 高岡 英則**
(三菱金曜会 事務局長)
- 高橋 裕子**
(津田塾大学 学長)
- 田中 愛治**
(早稲田大学 総長)
- 永田 恭介**
(筑波大学 学長)
- 広瀬 伸一**
(東京海上日動火災保険株式会社 取締役会長)

理事長

- 宮永 俊一**
(三菱重工業株式会社 取締役会長)

常務理事

- 妹背 正雄**

理事

- 阿部 恵成**
(三菱電機株式会社 常務執行役)
- 笹 のぶえ**
(大妻女子大学 特任教授)
- 七條 博明**
(三菱財団 常務理事)
- 篠原 聡子**
(日本女子大学 学長)
- 鈴木 寛**
(東京大学教授、慶應義塾大学特任教授)
- 田中 真彦**
(三菱ケミカルグループ株式会社 執行役員チーフヒューマンリソースオフィサー)
- 野島 嘉之**
(三菱商事株式会社 代表取締役 常務執行役員)

監事

- 三宅 茂久**
(税理士法人 山田&パートナーズ 統括代表社員)

◆ アドバイザリーボード委員

- 鶴尾 雅隆**
(特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会 代表理事)
- 大島 まり**
(東京大学大学院情報学環/生産技術研究所 教授)
- 小林 浩**
(リクルート進学総研 所長、リクルート「カレッジマネジメント」編集長)
- 飾森 亜樹子**
(株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ 経営企画部
ブランド戦略グループ部長 チーフ・コーポレートブランディング・オフィサー)
- 宮本 久也**
(全国高等学校長協会 事務局長)
- 吉田 文**
(早稲田大学 教授)

※2024年6月30日現在(五十音順・敬称略)

◆ 組織概要

所在地	東京都千代田区丸の内二丁目2番3号 丸の内仲通りビル9階
設立日	2019年10月1日
事業内容	教育プログラムや教育事業者への助成、事業活動のサポート
事業期間	2019年10月1日～2031年3月31日まで(予定)
総事業費	約100億円
お問い合わせ先	info@mmfe.or.jp

発行：2024年9月

制作協力/株式会社エム・シー・コミュニケーションズ

デザイン/株式会社弾デザイン事務所





一般財団法人

三菱みらい育成財団

www.mmfe.or.jp

〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
TEL:03-6206-3435 / FAX:03-6206-3436

